

1. 件名:「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-137)、  
廃棄物管理施設(112))」

2. 日時:令和6年1月10日(水) 13時30分~16時15分

3. 場所:原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)

#### 4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

岸野主任安全審査官、羽場崎主任安全審査官、小野安全審査官、上出安  
全審査官

日本原燃株式会社 技術本部 土木建築部 部長 他2名

三菱重工業株式会社

原子力セグメント 安全高度化対策推進部 主幹プロジェクト統括

株式会社大林組 原子力本部 設計第一部 担当部長

東電設計株式会社 土木本部 耐震技術部 担当職

#### 5. 要旨

(1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年12月27日提出資料に基づき、入力地震動の算定に用いる地盤モデルの設定について確認を行った。

(2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。

- ・地盤の減衰定数については、各種分析結果の考察にあたってその根拠となるデータや判断の考え方が明確になるよう説明を拡充する。
- ・表層地盤の物性値については、追加したデータの取得方法や信頼性の説明を拡充する。

#### 6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

7. その他  
提出資料  
なし

参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000120.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000121.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000122.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000123.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html)
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000124.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html)
- ・ 令和5年12月27日  
「日本原燃（株）再処理施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	録音パスしました。
0:00:04	これは日本原燃とのヒアリング、
0:00:07	安心します。
0:00:08	本日は、令和4年12月29日に申請のあった、最初の施設、
0:00:15	また、
0:00:18	当日のですね、管理施設の説明、
0:00:22	昨年では5年12月27日のベースに基づき、
0:00:28	事実確認を、
0:00:30	ですね、規制庁側の出席者ですけども、
0:00:34	オノキシノハバサキ間、
0:00:38	ます。それでは日本原燃の方から、出席者と、資料の紹介というか、今日どこまでの話をする。
0:00:47	渡、説明し、
0:00:53	はい、日本原燃事務局の中浜です。
0:00:55	日本原燃側の出席者、私の方から紹介いたします。
0:01:00	日本原燃より、ノモト、
0:01:04	ヤマグチ、
0:01:05	東電設定様より、宇野様、三菱重工業様よりサトウ様。
0:01:12	大林組様よりワダ様。
0:01:15	あとWEBからの参加で、日本原燃、オガセ、
0:01:20	あと再六ヶ所より、再処理事務局参加させていただいてございます。
0:01:25	それでは資料の方のご説明よろしく願いいたします。
0:01:29	はい。日本原燃野元でございます。改めまして本年もよろしく願いいたします。
0:01:34	本日のご説明でございますけれども、今回を提出させていただいたのは、別紙2-3の減衰定数に係る検討についてそれからBの4の表層基盤に係るアンケートについての部分と、
0:01:51	それに松原の本部の部分で、これまでコメントの対応について、
0:01:58	出来高をご提出させていただいたというのがざっとしたところでございます。で、新たにですね今回、モチギしているところといいますのが2点ございまして、
0:02:11	1点目は、えーとですね。
0:02:22	1点目は、減衰のところだと、このですね134ページから記載してございます。

0:02:35	新しいところだね。
0:02:37	すいません。失礼いたしました。まずですね、表層地盤のところ今回新しく記載してございますのが表層部分の追加データ 1999 年の既存コサクにコウのデータを追加してございます。
0:02:53	ここのところですね、追加した結果としての分析を今回、ご提示してというのが、今回新規でご提議してるところになってございます。
0:03:06	それですね、コメントリストの方ですね、ちょっとすいません。衛藤我々もちょっとバタバタと出してしまって少しちょっと穴がございましてちょっと前もって、
0:03:17	ちょっとお答えさせていただきたいというふうに思います。
0:03:20	等ですねまずちょっと一つ、
0:03:25	まず、4-1 のところのですね、戸部日野さんのオープンのところですけども、ここが 90 万における初期モデルの設定にあたっての検討の、
0:03:37	内容を追記するところございましてここ、中央地盤ですので、初期モデルとしては許可時の予定した速度をベースとして、これ同定をかけていくと。
0:03:50	ということでその境界のですね、速度構造に対する同定のですねこういう事項というのを今回、追記したんですけども、ちょっとその内容的には
0:04:00	そういうところ書いてるんですけどもこれ記載してると。
0:04:04	藤他の西土肥宮下 1、衛藤与那嶺勝見さんでちょっと冒頭のところに、その許可ジンノア贈呈についての説明だということ、ちょっと書き漏らしております、ちょっとあたかも今回の当然のような、
0:04:16	書きぶりになっているといったところにちょっと、後から気がつきましてすいません。ちょっとここは誤解のないように記載したいというふうに思っております。それからですね、次、
0:04:29	がですね、4-6 のですね、
0:04:32	コメント整備のところ、4-17 の対応合わせて書いてるんですけど、これ 4-5 の間違いですよ。17 におりませんので、4-5 の対応に合わせてというのがちょっと番号ずれを修正し損ねておりました。
0:04:44	失礼いたしました。これについての、次は以上でございます。
0:04:51	あとですね、ちょっともう冒頭に、もうちょっと申し上げたかったのが、今回まだ岩石コアのデータについては、まだ入れ込めておりませんで議会の提出をめどに、
0:05:06	入れ込みたいと思ってまた検討をしているところでございますけれども、ちょっと今のですね、データの状況を少しちょっと申し上げますと、

0:05:16	かなり大きな減衰が、今取れデータとしては取れてる状態と。
0:05:23	ということで散乱減衰もですね、含んだようなレベル感の
0:05:29	じゃないかといったような数値が、今1人というのが今現状ではございます。
0:05:37	ちょっとこのデータにつきましてはこのデータどう見るべきかということで、これ信頼のない棄却すべきデータと見るべきなのかそれともこの測定法でのデータとして、
0:05:49	これはこれで受けとめるべきなのかといったことを、ちょっとここはこの道ですね専門家の方々にちょっとご相談して、扱いを我々も検討したいと。
0:05:59	いうところで、今ちょっとまだ検討を進めているところでございます。野坂細井タダことありますか。はい。
0:06:06	今の
0:06:08	野元さんの方からお話がありました、
0:06:11	実際に若干ですね、オオキ目というのは、ライス散乱減衰程度の値が岩石コアのあたりから出られる。
0:06:20	ということで、一般的に日本で2例ほどこういう研究されてるんですけども、それに
0:06:28	実際にはこの付加効果といって、2%程度、その岩盤の中の亀裂ですとか不均質性で減衰が大きくなりますよと、実際の伝播した時に変数が大きくなりますよというふうな答えが、
0:06:39	2年ほどですね紹介されてるんですが、それと比べるとですね若干大きいということで、2例をですね、紹介してる電中研アノ先生にですね、間瀬先生という研究者の方にですね、
0:06:52	ちょっと今、データを見ていただくというふうに進めております。
0:06:57	それをもってですね、我々これが提出できるものなのか。
0:07:01	試験方法等がですね企業がないものですから、何かちょ
0:07:05	不具合があったかそれとも、まずその辺がはっきりできない新知見なものですから、出せるのかということですね、ちょっと検討させていただこうかというふうに考えております。
0:07:18	いうところでございますので、ちょっと繰り返しますけど本日のお示ししている新たなところであります表層部分のですね近づいた踏まえたデータの状況と、

0:07:30	それから今回介護でもちょっとお話したところを踏まえてもまとめております。S検層データの各グループごとの傾向とそれから旧オオニシヒガシ、
0:07:43	カミデの分析をすると、ちょっとそういったところを、今回、前回からのAdvanceという形では、小関手島のそういったところも踏まえまして、衛藤五井、
0:07:55	コメント等いただければというふうに考えているところでございます。こちらからのご説明は以上でございます。
0:08:05	規制庁亀井です。
0:08:07	まずさっき
0:08:10	岩石コアですけど、
0:08:13	もともと、
0:08:15	去年の進め方ヒアリング
0:08:17	等、
0:08:18	この次の資料提示は、
0:08:22	18。はい。
0:08:24	その次の週ヒアリングみたいな形だったスケジュールへの影響みたいな感じなんですか。
0:08:31	そうですね、確たることはまだ申し上げることができないんですが先ほどの宇野さんからお話のありました専門家へのご相談というのを、明日なり来週の早い、いきなりといったところで、ご相談しようと思っております。
0:08:44	その結果ですね、記載することに、我々も迷いがないような状態になるようであれば、次の提出 18 の提出に間に合わせたいというふうに思っておりますが、
0:08:55	まず少しちょっとここをもう少し検討すべきというような話にもしもなるのであればちょっとそこは、いつまでにお出しできるかということも含めてちょっとご相談かというふうに思っております。
0:09:10	規制庁。
0:09:15	先月の話だと、岩石コア試験でえられる単位体積重量が出てくる
0:09:23	井清系の
0:09:26	データもまだ出せませんか、いろいろ関係してる。
0:09:32	それへの
0:09:36	熱の

0:09:45	今申し上げたのは減衰比の検討の話ですので、今患者さんおっしゃっていただいた密度のほうの測定の方にはこれは影響してこない。
0:09:55	状態ですのでそちらの方の検討の方には特に影響はないと、いうふうに考えてございます。
0:10:03	はい。規制庁菅です。それはなんでかっていう。
0:10:07	端的に説明できます。
0:10:09	減衰というのは、減衰は信頼できないけど密度が信用できる場合、
0:10:14	当然関野でございしますが、実際に密度の方はですね、ノギス報と言って次JPSで決まっています。質量を測定する。
0:10:23	方法で実施してありますが、今回のですね、勝部スペクトル比高なりライズタイム方というのはですね、基準がございませんので、
0:10:34	ご説明するにしてもその新規制新知見ということで、我々はその妥当性がちゃんとあらわせますということでご説明させていただきたいというふうに考えておまして、
0:10:43	その野木双方のですね単位体積重量につきましては、基準にのっとりたものでありますので、もうそれもすべて終わっていますのでその方が使えるというふうなことでございます。
0:10:53	はい。そうすると、18日、
0:10:57	の資料というのをとりあえず出せて、
0:11:00	その岩石を減衰がもしかしたら手打ちにはなるかもしれないけどそれ以外については
0:11:08	予定通り出せそういう
0:11:11	現状でございます。その通りでございます。
0:11:14	規制庁、
0:11:16	今野家。
0:11:18	規制庁側からまだ確認してる。
0:11:21	はい。規制庁浜崎ですちょっと深掘りというか、まず今のお話ですと、大体セキ重量の話と、岩石コアのその減衰等じゃ及びちょっと別物であって、単位体積重量については従来通りはもう終わっていますと。
0:11:34	いう理解でまずよろしいですね。はい。規制庁花木ですそれと、坂セキコウノ減衰の方ですけれども、
0:11:42	いずれご報告あるのかなと思ってますけれども、二つの、さっき言いました、関西だとか、出方二つありますけれども、
0:11:54	今やられているのは、9電さんの実績のあるところでやられている。
0:12:01	実施される。

0:12:02	状況ですか。
0:12:03	はい。当然設計の問題ございます。9 電さんがですね実施したのが、岸さんというところで実施したんですが、それと全く同じシステムといえますか野木試験されてる作業員とかでも、
0:12:16	全く同じ方法でやってます。ただ、金有賀ですね。
0:12:21	ここ 99 年産はですね、新藤氏が 1 メガヘルツの進藤氏を使って、これ実際にその岩石の共振する周波数によっては、その 1 メガヘルツ使ってたんですけども、
0:12:33	今回その 1 メガヘルツですと、少し共振周波数が大きくなりすぎて、そのスペクトル比が重ねられないということで、それが 100 キロ目が 100k Hz 落としたんですね。
0:12:44	それを自分の事業所でそうすると、大体 20 キロHz ぐらいのところ共振しますんで、それでられるということで、やっておりましたので、
0:12:54	実際には値的には出て参ります。同じ手法で、具体的には出て参ります。ただ、その 100、もともとやりました 1 メガヘルツと今回 100kHz というふうな、
0:13:06	その新藤氏を変えたことによる、何らかの影響が出てくるかということで、ちょっと検討しております、実は先ほど言いました電中研の方の方はですね、
0:13:16	100 ヒグチ、はい。実施しております。ですから、試験機的には今回、ユキさんでやられた試験機と同じ方法でやっておりますので、それを実施している研究者の方にですね、もう、
0:13:28	一応アポはとっておりますのでそれでご相談をして、それが信頼できるものなのかとかですねあと妥当性の確認をどういうふうにしてるのがあったとか、ちょっとその辺のことをですね確認してから、
0:13:38	日本原燃さんとして、信頼性のあるものを出せるかどうかというふうなことをですね、社内的に検討したいというふうなことだと。
0:13:46	規制庁、和気です。大体状況を理解しました。挙手によってアルミの塊かなんかで使ってそうですね。それを今、100Hz、100 キロ
0:13:57	次の形状カドノ材料かってわかんないですけど。はい。それで形状当然設計のものでございますが、形状も今回急いだためにですね、本当の供試体じゃなくって、68mm の供試体を使っておりますので、
0:14:09	そのアルミの供試体自体もですね同じものを切り出して使っております。で、そういうものも含めてですね、ちゃんと正しいのか或いはその相



	似則みたいなものが働くのか、その辺のところをですね、ちょっと確認していきいたいというふうに考えてます。はい。規制庁、滝です。はい。
0:14:24	電中研、佐藤さん、戸高サトウさんと松原さんですね。はい、わかりました。
0:14:30	今ちなみにどのぐらい、いわゆる動的泉アノ同杉井参事合宿だとかですね、それと同程度ぐらいが一つ考えられるんですけど、ただ、
0:14:41	9 電さんと檀支所が違うじゃないですか。はい。ということもあるんで、
0:14:48	そういった違いもあるルーし、その試験法も変わってるということで、ちょっと幾つか違いもあるんですけども、
0:14:55	だから土手木津ミイですと例えば 2%とか、というような減衰定数率でいい。
0:14:59	6ヶ所出てくるわけですけど 3%とね、
0:15:04	かなり 0 よりも大きな決まる。
0:15:06	ありますちょっと値的のところだけで申しますと、実際の岩石コア試験のですね材料減衰は 0.5 から 1.5%、バイアスですけども、
0:15:17	の値でございますが、今回ですね、平均的には 4%ぐらいの値が出て参ります。
0:15:24	そうすると、今実際にその繰り返し 3 軸試験っていうのは、我々基準作ってるんで、基準に相当してるんで、JNESでちゃんとした基準でやっておりますから、
0:15:35	それと今回の岩石コアの結果が、ちょっと倍なり、うん。3 倍って、
0:15:41	ちょっと違う結果が出てるといことでございます。はい。
0:15:45	はい。規制庁浜崎です。状況は大体理解しましたので、ちょっとその、
0:15:50	電中研の方なり、の考察も踏ま含めて、また、ご説明いただくということでもお願いしました。
0:15:59	はい。
0:16:00	以上です。金です。ちなみにですけど、分析詳しくって確か 17 件ぐらい。
0:16:07	大きな結果って、
0:16:10	衛藤前主事です。全種類やっております、先ほど言った、4 を基準に、プラスマイナス 1 ぐらいのバンドウでですね、ばらついた値が出ております。
0:16:24	規制庁上坂です。岩種ごとに何点か 3。

0:16:29	縦断主アート、当然設計でございますが、10 台全部、12 月あるんですけども、基本的に泊層以外の主要の縦断取とって、試験してございます。で、岩種ごとにサンプルは幾つか、それとも 1 岩種一つ。
0:16:44	いや、みんな、すべての慣習、最低 3、
0:16:48	やっておりますので平均値は、
0:16:51	で、
0:16:52	というと全体的にそういう形。
0:17:04	じゃあ、
0:17:05	とりあえずその件は、
0:17:07	挙手としてあと資料の中身ですけど、本文のところから、
0:17:14	触りたいと思いつつ本文も、
0:17:17	何かちょびっと直ってるって感じで、何か、どこまでどう、
0:17:22	どういうことなのか、何が残ってるのかもよくわかんないんですけど、全体まだブラッシュアップしなきゃいけない。
0:17:30	案件は濃度でございます。はい。おっしゃる通りでしてこの全体ですね、検討の流れのところの記載からですねちょっと構成もですね、
0:17:42	これまでの議論ですとか最後の御説明やそれと有識者からのまずは、
0:17:47	踏まえて、少しちょっとまだ、あと整理をしながら入れ替えないといけないなというふうに思っておりますそういうところはまだ今回、全くに範囲でございます。今回本文について、
0:17:58	修正してきたのがコメント管理表に書いてございます 1 の 4 番のところの、もですね六ヶ所層や女性モリとの位置付けを明確にするといったところの記載なんですけどもここもですね、
0:18:14	この今やっております、埋め戻しの流動化処理等の考え方を確定させた上でちょっと次ステップで検討して参るというふうなことで考えてございますちょっとそういうことがわかるように記載したというところであまりそんな紙をですね、
0:18:30	これを 63 に対して、こうやっていきますということが今記載できていないというところでございますけどもステータスを明らかにした記載になると、ちょっと期待としてはそれぐらいになっております。本文に関しては、以上でございます。
0:18:45	うん。規制庁、丹治です。
0:18:48	53 ページの、
0:18:51	真ん中より下のポツ三つあるのかな。
0:18:54	二つ目ですね河成ん丸っと引いてある。

0:18:57	上記の確認等っていうところで、そのあと物性時設定の母集団を設定するっていうのが、具体的に何を指してるのかよくわかんないんですけど、この物性値設定の踏襲だと、どういうことをイメージして、
0:19:11	セキ申し上げ、家の方でございまして申し上げますと、このですね、データとして、この敷地全体の対象として、これ設定するのか、エリアを分けて、
0:19:23	使うことを、ざっくりという申し上げますということでございます。
0:19:29	規制庁よくわかる
0:19:31	募集、
0:19:35	終盤
0:19:36	何か、
0:19:38	多分また12グループごとに設定するのか、石垣とかで設定するのか自然に設定するのかといったところございまして表層に関して
0:19:49	これまでオオハシゴトウはアマン敷地全体で扱うんじゃないかというようなデータの整理をしてきたところではございますけれども、これらのものに対して、またどういう単位で設定していくのかと。
0:20:04	やったようなところはそれぞれに対して、検討していかなくちゃいけないというところになるかというふうに考えてございます。
0:20:14	うん。
0:20:15	規制庁、五味です。とりあえず言わんとしていることは、
0:20:22	もう表現としてはなかなか、
0:20:25	フクイという交渉を中断って言葉が多分新しくなっちゃってるのか今までそのグループだったグループとか、
0:20:34	とりあえず状況はわかりました。表現は、適宜
0:20:38	全体、わかりやすくなる。
0:20:43	他、規制庁で、本部関係何かありますか。
0:20:50	邪気、規制庁ハバサキです。
0:20:55	ですね、84ページ、2、企業紹介ですね、本部スギタタケツガイセツチャアノ。
0:21:05	スミエいいですか。
0:21:06	じゃあ、新野さん入っちゃって、はい。
0:21:11	来てたわけです。失礼しました。
0:21:14	84ページに、企業ですね岩盤データ、減衰の検討内容ということで整理されてまして、その中で、実施サイトのところろの記載がですねこれ本当なのかなと。

0:21:29	で、この表自体は、82 ページから気象に対する説明があって、
0:21:36	82 ページの一番下のパラグラフとか見ると、一応またサイトウの状況も含めて調査しました。で、他サイトについては、南岸呉等に統計六、七を参照したって書いてあるんですけども、
0:21:50	84 ページの表見ていただくと、
0:21:54	去年、
0:21:56	話もありますしね。
0:21:58	ちょっと、
0:22:00	例えば一番は、ごめんなさい、具体的に 84 ページの、
0:22:04	表の一番上の 3 軸圧縮による方法で、実施サイトウ説購入導入とKKって書いてあるんですが、これ許可のところは、
0:22:15	パーになってるじゃないですか。
0:22:17	とかで、
0:22:18	その下の方に行くと、
0:22:20	許可の段階では、
0:22:22	限界だったり当院であった用法まであったり、
0:22:25	ちょっとこら辺が、
0:22:27	どこまで正確に記載されているところが、
0:22:32	わかりにくいんですけども、
0:22:35	要はその前段で言ってるは、弾丸等にと柏崎を基本参考にしますと言いつつ、オオバが出てきたり、或いは、
0:22:46	さっきの 1 行目のところですね動的参事の話だとか、
0:22:51	こら辺の考え方をちょっと説明してもらえますでしょうか。
0:22:55	はい。日本原燃のオガセでございます。そちら今ご質問あった件なんですけれども、まず野瀬一番右の設置許可のところにつきましては、なるべく新しい最近審査されているサイトという観点でちょっと見たところでございます。
0:23:09	その上で基本的に 9 電さんで、いわゆる震源を特定せずの許可の際に審査があったものはそれを優先的に書いているというものでございます。他の東海第 2 とかオオバとかアノオオバとかまだ審査中だったりしますけれども現状地盤モデルの基準地震動 Ss の策定に係るところの、
0:23:27	もう、
0:23:28	地盤モデルの策定において実施されている内容を確認した上でこちらに記載しているというところでございます。河崎さんは最初沖審議されておりました一番上の 3 軸圧縮による方法なんですけれども、いわゆる材

	料減衰のひずみ依存特性を考慮しているサイトはどこですかという話で ございますけれども、
0:23:47	一番右側の実施サイト設置許可のところにつきましては、基本的にどこの サイトさんもなんですけれども、Ssの策定のときにあたりましては、何 だ、この非線形性っていうのは基本的に見ていない。
0:24:00	やはりそういう人観測記録による同定とか、あとは9電さんあるみたい には実測で遊佐件数をやったりとか、そういったところがありまして、神 経を直接見るようなところの評価方法っていうのは許可の段階ではやら れていないというところ、あくまで今実際としてあるものとしましては、
0:24:17	トーカイさんですとか柏崎のKKの67号ですとかアノハバサキさんも審 査の中でご覧になったかもしれないですけど、そこで建物の入力地震動を 出す時に非線形を見る上で、この3軸圧縮試験による方法を見ている というところになりますので、あくまでここは材料原資の非線形性という ところで、
0:24:34	施設工認だけのところになるというふうに認識しております。許可のと ころは先ほど申しあげました通り、最近の審査、新藤作成の審査の ところを持ってきているというところでございます、それら確認している ところでございますので一応私も確認して今、
0:24:48	はい私の認識通り書かれているなというつもりではおりました。以上で す。はい。規制庁浜崎です。例えば、自治観測から、
0:25:00	伝達関数での評価っていうのはこれをでもやっているし、ということと、 あとこれ仙台は、
0:25:07	あれですか、結局、
0:25:10	どういう何か理由があって、
0:25:12	コウははじいたならはじいたんで、そのあたりを説明いただければと思 ったんですが、
0:25:18	日本原燃オガセですおっしゃる通りですね仙台もはい、おっしゃる通り で、下並べて書くべきではあるなあと。はい。おっしゃる通りで思いま した。ちょっとすいません議論として国、いろいろとやられたのは玄海さん の方でしたので、何ていうんすかね。ちょっと資料を作ってる方と見て、
0:25:35	いただくという観点で、どの会社のどのサイトの資料を見れば網羅的に 書かれているかなというところを優先的に、はい。見てもらおうと思って 書きましたので、もし網羅的に書くのであれば、仙台がおっしゃる通り書 くべきなんです、前回作業を見ていただければその辺の仙台の内容

	も含めて包括的に見えると思いますのでこちらで代表したというちょっとそういう
0:25:54	意図が入った選定になっています。以上です。はい。規制庁山崎です。各なおこの代表的な例としてって入れるか或いは網羅的っていう観点ならやっぱり網羅的に記載が必要になってきますし、
0:26:09	例えば、伝達関数の真ん中のところなんかはあれですね、耐震設計上の一般的な条件として多く実績ありみたいな、すごい10把1からげ的な表現のところもあるし、そこら辺がですね。
0:26:22	こちらとして本当に抜け漏れがないのかとか、代表なのかとかですね判断しかねたんで、質問しましたので、
0:26:35	まあさ、この表を引っ張ってくる文章のところから、もう少し説明を正確な形で記載なり、修正の方、
0:26:45	してもらえればと思います。よろしいでしょうか。
0:26:48	はい。日本原燃の大橋です。了解いたしました。今お話踏まえますと真ん中辺りのバイリニアとか振動数依存性なしの伝達関数のやつとかですと、正直ほぼすべてのサイトで許可の時にやっているというような状況でもありますので、完全に網羅するように書くというのはあまり得策じゃないなというふうに、
0:27:08	考えております。ですので、文章のところからちょっと工夫して書いてあげて、代表としてここがあって、こういう内容の項目をやっている、あと他のサイトでも同じようなことをやられているというようなことを書いた上で、じゃあ、その一番最初に言ったサイトを代表として表に落とすというようなちょっとそういうような繋がりがわかりやすくなって、
0:27:26	かつやられてる内容が、網羅できるような記載にちょっと直したいと思いますちょっと具体は考えさせていただきますがそのような方針で対応したいと思います。以上です。
0:27:36	はい、桐山です。私Cからは以上です。
0:27:41	はい。
0:27:43	規制庁、
0:27:44	岡石野さんですけど、
0:27:48	国もあれですね110ページあたりで、
0:27:53	その幻想データ
0:27:56	中ているところがあるんですけど、110ページだとなんか四角が組で何か検討中みたいなことが、
0:28:05	よくわかんないんですけど、この記載としては、この記載というか、

0:28:11	現送Dた
0:28:14	への考察っていう意味ではもう書き終わっているってことなんですか、認識をまずでしょうか。
0:28:21	はい。日本原燃のオガセですこれまだ、諏訪県ソウノ考察としてはすべては書き切れていないというふうに思っています。ちょっと今上出さんおっしゃってた資格のところの意図をちょっと書き、申し上げさせていただきます。
0:28:34	さっき本文のところでもおっしゃってたようにちょっと本部まだ構成をガラッと直さなきゃいけないという認識しておりますというのも、前回の審査会合でご説明していた流れがあるわけなんですけれどもそれを反映していないという状況に今現状はあります。
0:28:51	その会合で示したステップというのが、まずデータをとって、その信頼性を確認する、次、そのデータに対して考察をして、いわゆるas-isみたいなものをつくってというステップに、
0:29:03	最後に設計上の配慮をやって、基本、地盤モデルを作っていくというステップ3になっていくところなんです、そういう意味でいくと、あくまでやっぱりこの110ページ近辺の章というのはあくまでそのデータとその信頼性と、あとはそのデータから見られる事実関係、
0:29:18	にとどめるべきだと思っております、今回こちらの110ページに書いているような各地質構造とのひも図形た考察ですとか、あとはここに、今さっき私が全部書き切れていないというふうに言った内容なんですけれども、他の地盤。
0:29:33	との対応関係といいますか、地盤ん。
0:29:37	違うな。すいません。東側地盤の中での関係性とか、中央とヒガシの相対的な関係とかそういう跨いだ確認考察というのはやはりステップ2の方に移動すべきだろうというふうに考えておまして、そういう意味で7ポツというふうに0アノに移動するようにちょっとしたいと思っておりますというところでございます。
0:29:56	ですのでこのアノ本部の構想への変更にあわせまして、こちらはこの2-3の構成も大きく変わることになりまして、そのときにこの7ポツの考察のところでのこの内容が移るというようなそういうところでございます。ちょっと途中で今書かれていない内容もちょっと説明入れてしまいました。はい。以上でございます。
0:30:14	はい。
0:30:16	そうすると、今日は何の話をするれば、

0:30:22	アベに飲んでございます。日数、今の画面でちょっと書けるところデマチタケヤ大井きましたのでこれに対して、事実関係の、
0:30:32	確認事項があれば北回りしたいといったようなところかなというふうには思います。
0:30:38	規制庁深見です。
0:30:41	ちゃんと作ってから出してください。
0:30:44	ですね、途中段階で出して、
0:30:47	どうですかって言われても、はい。
0:30:48	何とも見えない。
0:30:54	特にそうですね、今回何で別所新野さんが、中途半端な状態で出されたのかがよくわからない。
0:31:03	なぜ、
0:31:04	この状態で、
0:31:07	資料出してヒアリングをしようと思ったのかっていうのが、
0:31:11	わからないんですけど。
0:31:14	軽量ヒライでますと音マツノ進め方Hyalo申し上げていたように少しこのためではでき高になると。
0:31:25	いったようなところで考えておりました。その出来高カーでお出しするといったような中でもですねこの今 5.3 章で書いておりますような中にエリア、
0:31:38	の、それぞれ、すいません、衛藤ここですねそれぞれエリアの中でのえさ検層のデータのあれですね、石ヒガシ中央のエリアの中での、
0:31:50	1 エザキ 3 の総合の関係性それから、そのエリア間での関係性については、今回ちょっと書き切るというのを、もともとターゲットにして、今回、提出、27 日提出というふうに考えておりました。
0:32:07	それがですねちょっと中途半端になってしまったというのは、おっしゃる通りでして、これはですね、介護の時の
0:32:17	衛藤シナリオにおいて北尾長谷の説明もそうなんですけれどもちょっとそのあと、専門家の皆様そうですねちょっとアノを議論してる中で、
0:32:27	このですね、エザワ検層のDたについて、この相互のデータの間の関連性ですね、これを
0:32:39	見た上で、これちょっと集約できるのかできないのかといったような議論をちょっと先を見据えた上でちょっと検討しなくちゃいけないというので、ちょっとアノを込めてアドバイスもいろいろいただきながら一緒にちょっと入っていただいているところでございますんでちょっと最後までですね、



0:32:54	最後こういうふうにご提示するといったところまで、ちょっと今回ご提示できてないんで、すいませんちょっと途中経過になってしまったというところでございます、
0:33:04	だったらちょっとできてから出せよとおっしゃるのも最もではあるんですけども、その他のところのデータちょっと今回、表層の方も出しているものもあったので、
0:33:16	ひとまずは今の出来高でちょっとお出ししようということで出させていたところでございます。以上でございます。
0:33:23	規制庁亀井です。
0:33:26	若干的だったっていう話を聞いていて、あまり時間オクノも、
0:33:31	ていうのもあって、設定はしてもいいと思うんですけど、
0:33:35	でき高にしてもっていうところがあって、
0:33:38	110 ページのあれですか、資格より、
0:33:41	上については、これはもう手を入れないっていうか、これは説明し切って、
0:33:48	まず、
0:33:50	合わせてこれからなんですってことですか。
0:33:57	はい。日本原燃のオガセでございます。おっしゃる通りで 110 のその四角よりも上っていうところにつきましては、はい。ここで取れてるデータとそれが事実関係なのでここまでだというふうに思っております。で、その四角よりも下のところというのが、はい。先ほど申しあげました相対的な関係を加えた上で、はい。いわゆるステップ 2 の
0:34:17	考察のところ、きちんと書かなきゃいけないところということになります。
0:34:21	はい。
0:34:22	だとすると、その資格より下のところが中途半端になおっているのが多分一番よくなって、
0:34:28	まだなんだったら、ここはまだディスプレイ的あって、それで、その上で、その以下より上のところはこれで終わりだから、今日、この話は聞きますよと。
0:34:40	というのが出来高として最低限示すべき。
0:34:44	ちょっとそのあたりは、
0:34:47	資料を見てわかるようにしといてもらわないと、ヒアリングの時に、
0:34:52	ちょっと気をつけてください。
0:34:54	今後また、でき高でもらうことはあんまりないと。

0:34:59	元ノモトでございます承知いたしました。こういうご確認いただくときに、どこまでのところをご確認いただくべきなのかということとこの資料のステータスと見て
0:35:09	見ていただくところをですね、こういうふうになんか補足しないとわからないと言ったようなことがないように今日資料の作りの時には心がけたいと思います。以上でございます。
0:35:19	はい、規制庁深見です。それで、
0:35:22	言うと、今、今日は説明し切ってる資格より、
0:35:29	上のところですね。
0:35:31	測定における揺らぎの範疇であるって言って、
0:35:35	は、
0:35:38	なぜ、測定における竜崎。
0:35:41	これあれですね、下水の谷のところですね、何でちょっと測定におけるヤギの範疇だって考えたのかっていうのを解説しても、
0:35:50	はい。日本原燃のオガセでございます。109 ページの一番下の、
0:35:56	ところに書いてあるところではあったんですけども、基本的にやはりこの減衰定数の構成というものを考えますと、途中で下がって途中で上がるという傾向というのは、基本的に科学的にはやはり考えられないというようなお話があるというところ。
0:36:10	あとはもう一つの理由としては、今これオーダーでオーダーレベルで対数軸で軸で、
0:36:17	グラフを書いているわけなんですけれども、そこで谷のように見えてはいるところではあるんですけども、主要な周期はいわゆる 0.1 秒よりもちょっと短く、0.5 から 8 秒ぐらいのところ、
0:36:29	のオーダーに対しては、かなり小さい領域での、1 桁落ちる程度の谷なっているというところでございますので、これというのはこの地盤のなんつこういう有意な傾向を示しているものではなくて、あくまで測定として出てきたものであって、何ていうかすいません繰り返になりますがその地盤の何かしらの特徴を示してはいるものではないだろうというふうな意味合いで、
0:36:49	この測定における揺らぎの範疇という言葉を使わせていただいております。以上です。
0:36:54	どう規制庁からですよ。
0:37:00	最初なんか二つ言いました。
0:37:04	はい。二つでいいました。一つ目だけ教えてもらっていいですか。はい。

0:37:08	はい。一つ目については、基本的にちょっと言葉も出しますけれども、地盤の減衰定数の構成というのが、周波数依存性を持たない材料減衰と、
0:37:18	あと周波数移動性をもってカタギリ三方上がりのサンランケースという二つで構成されるというところを考えますと、途中で、周波数体のどこか途中で下がって、またどっかと、それよりも先で上がり始めるというような傾向というのは科学的には
0:37:34	ないというようなところと考えておりますので、これが何かしらの地盤のこの特徴を示したようなものというふうには見てとれないというような委員会でございます。はい。
0:37:46	規制庁亀井です。普通だとありえない結果が出たから測定が揺らいだんだってそういうロジックですか。
0:37:56	そうですね一つ目に関してははい、おっしゃる通りです。
0:37:59	で、すいません、加えますけれどもそこから先が二つ目で、さらにその差ってというのが、グラフの見た目をオオキなくて、
0:38:08	思った通りの結果が出なかったら、
0:38:12	特定のせいになっちゃう。
0:38:15	ての
0:38:18	を無理に
0:38:26	思った通りなのか。
0:38:27	で、
0:38:30	変だったんだろうなってすごくそういう、
0:38:33	ロジックリードチェックというか、解決になっちゃうんですか。
0:38:37	基本設計のはい、秋野です。ですね、思った通りというよりは、物理的に今まで共通理解として皆さんが思っ
0:38:50	ている傾向とは、違うよねというのが事実関係なんだと思うんだと。そしたら、こういうことが物理的に
0:39:00	起こり得るのかっていうと、でもそれに対して、我々こんなことが起き得るだろうという知見を持ち合わせてるわけではない。
0:39:11	ていうのも事実関係ではあると。
0:39:13	で、高だからこれって約束先生なんだよってそこに短絡的に行くっていうことじゃなくてその次の小高も含めてもう全体見ると、やっぱりこれって、
0:39:24	その進むために、出っ込み引っ込みは多少なりともするもんだけれども、その内数と考えるのが自然じゃないのかなというのがこれ言いたいことだと。

0:39:35	いうふうに考えております。尾川さん、細田お願いします。
0:39:39	日本原燃のオガセです今おっしゃっていただいた通りのところでございまして数字の揺らぎって言い方は確かに本当によろしくなかったかなと思っておりますので、何ていうんすかねその地下構造の特徴に紐付けられるものではないと考えられるとかそういうような
0:39:55	何て言うんですかね、のがデータの分析結果として正しい言葉なのかなというふうに思いました。はい。以上です。
0:40:03	規制庁カミデすまあの日ぶりはあれなんだけど、
0:40:07	要は、
0:40:10	あり、
0:40:12	規定が揺らいでるっていうやつ測定結果がいまいちだったような
0:40:21	こんなもんですよ。
0:40:23	ちょ
0:40:25	タダ失敗した。
0:40:30	その辺はもうちょっと、
0:40:31	明らか
0:40:32	と、なぜ
0:40:36	ね、そこを、
0:40:38	ぐらいは書かナイトウアノ。
0:40:41	今までもそのまま丸っとですね、ふわっとした言葉でまとめちゃうっていうのは、
0:40:50	そういうことをされるとちゃんと考えているのかなと。
0:40:54	で、そこはちゃんと、
0:40:55	開け閉めす。
0:41:00	はい。日本原燃の尾松です。了解いたしました。今おっしゃっていただいたようなことをきちんとちょっとたいと思います。あとは結局こういうデータとして、出てきたものとしましても、我々としては今のところなんですけれども、こういうちょっと
0:41:15	あえて今揺らぎという言葉使いますけどもこういう由来であるデータについても、これはこれでとれているものとして、後の考察のところではこれをとれたデータとして取り扱うというようなところを考えておりましたので、そういうところの繋がりも踏まえて、こういうちょっと揺らいでるデータだけでも、

0:41:31	あのデータはデータでちゃんと使うこととするとかその辺の扱いの仕方 も含めてですね、記載の方をちょっと追加させていただきたいと思いま す。以上です。
0:41:41	規制庁、五味です。
0:41:43	あとはですねソースオーダーの話をするんだと、そもそもこの測定方法 ってそれぐらい揺らぐんですよねばらつき出ますからというのがわかっ ていて、その範囲に収まってるといふんだったらそれで話終わり。
0:41:58	なおわけですし、
0:42:00	そそのなそうなんだけど、対数軸にしちゃうと、現状ちょっと見えてます ねっていう。
0:42:08	話で、それはそれで数字は
0:42:11	ってということなんで、
0:42:14	どういう方法で説明する場合なんですけどもちょっとしっかり説明して、
0:42:22	はい。かしこまりました。今のお話踏まえて、ちょっと書きぶり考えたいと 思います。
0:42:29	はい。規制庁浜崎です。ちょっと今のはなCに関連するとかまさにそ の話なんですけど、例えば中央地盤でも 111 ページの、
0:42:37	結果が出てて、9-11 コウのところですね、これを定性的には似たよう な下に凸になれば、引き込むような形になってますよね。で、
0:42:49	西側については、会議の時も言いましたけど、建設時モニターよりも 凹凸が出てきて、
0:42:58	先ほど言われたようにこれが測定上の何か適用限界だとか測定限界 みたいなものに近いからこういう現象が出るのか或いはやっぱり物性値 として出るのか。
0:43:10	だからこういう下に凹むっていうのが、何らかの原因があるんだろうけ れども、
0:43:20	いろんな努力したけどよくわかんないっていうものなのか、そこを、
0:43:26	単に測定の揺らぎだとか測定の誤差とかいうことで本当にまとめていい もんかどうかですね。
0:43:33	そういったものを踏まえて、次のステップ設計の方に行くわけなんで、
0:43:39	ちょっとそこはわかったこと、わかんないけどわかんないでやっぱり、
0:43:43	前提の上でタダ設計ではこういう考えで、
0:43:49	これはクリアするだとかそういう話になると思うんですね。
0:43:52	これ例えば、
0:43:53	外部の支援の専門の人とかにも、

0:43:56	聞いていただいたのかどうかわかんないんですけども、そういった相違を含めてもう、方はちょっとやっぱりまだわかんないねという話ならば、ちょっとまとめ方が違ってくるかなと思ってます。
0:44:07	ので、
0:44:08	ちょっと今ノダと大井、
0:44:12	何となくコウを測定なのか、現象なのか、揺らぎというような話で、コウをwhatコウを落としているところがあるんですね、もう少し、
0:44:24	付加モリイしたけれども、どうだとか、ここまでわかったけど、
0:44:29	実際は、
0:44:33	そうではないとかいう話があるのかなというのが一つです。
0:44:36	それと介護の時に言いましたけど、実際、
0:44:39	よくわかんないけども減っ岸谷へこむんだけども、例えばシミュレーションしたら、全然その影響は出てこないですよとか、
0:44:47	或いはさらにアノPS、エザワ検層のですね
0:44:53	測定を、
0:44:54	今後ハヤシふやすという方向も、
0:44:56	米、会議でも言ったんですけどそれができるかできないかっていうのもあるんですけども、
0:45:02	もう少し、この現象に対して、ここまでわかった、これ以上はわからないっていうところを、
0:45:11	もう少しクリアにしてもらいたいってのは会合のときの指摘です。
0:45:14	今のこの文章でですね、100何ページかの文章をDはちょっと、回答としては受け入れがたいかなというのが、
0:45:25	間ぐらいなんですけども、
0:45:28	そのあたり事業者として、
0:45:31	どうですか、もう少し努力する考えとかございますか。
0:45:37	遠藤でございます。おっしゃる通りですね、ふわっとした書き方で終わられてもっておっしゃるのは、よく理解いたしまして確かにそういう書き方になっているかと。
0:45:48	いうふうには思いますので、今の牛木踏まえまして、えっとですねこの我々がこのデータを見た時に、何がわかって何がわからなくて、
0:46:00	これはじゃあ、こういうふうには解釈しようとはそれはなぜならこうであるとか、わからないところは、わからないままで、これはこうであると。そして、その次にそのわからないところを踏まえて設計でコウを扱いますと、

0:46:15	至るところで、最後、そうわからないものはわからないものとして、設計であるかということになるんだと思いますね。そうですね。何がわかって何がわからないという判断になるかというのが、まさにその専門家の方々の、
0:46:28	意見をいただくべきところだと思いますんでそういうところも踏まえまして、ちょっと記載をですね、ちゃんと丁寧にわかるように記載することだというふうに理解いたしました。失礼いたしました。
0:46:39	大江さん何か確認したいこととか補足とかありますか。
0:46:44	はい。原燃のオガセです基本的に今、野本さんおっしゃっていただいた通りのところで、大丈夫。はい。認識同じでございます。はい。ここやるところも今後考察のところで加えるというところがまさしく先ほどアノハバサキさんおっしゃったところのシミュレーションで確認してみるというところの話、会合でもいただいておりましたけども、
0:47:04	そこに繋がると思っております、実際あのさっきハバサキさんおっしゃった、鍛えるいろいろ考えてみたけどわからなかったというところの、性格が強いところが今回の方でございますので、そのわからないなりに、この厚い疇津というのを扱ったときに、
0:47:18	その影響っていうのが、いわゆるそのシミュレーションやったときに、ほとんど影響なかったですとかそういうようなところの確認とつなげた上で、先ほど野本さんおっしゃった通りなんですけどわからないところはわからん、ないところなりに入れてやってみたけども影響がなかったというようにそういうようなところまで含めての、
0:47:33	はい。最終的な考察にはなると思っておりますので、その流れをちょっとは作るように、記載の方を深めたいと思います。以上です。はい。
0:47:42	来てたわけですか。はい。
0:47:44	もう少し検討をお願いします。以上です。
0:47:51	と言って、
0:47:54	考察ガード中だということなので、金冊の本検討状況、
0:47:59	確認したいんですけど。
0:48:02	普通、真ん中ぐらいのPLUG
0:48:04	S波速度についてはピンクですね。
0:48:08	西側重量の小さいとか、そういったことを踏まえたということで次のパラグラフで、
0:48:16	倉沢においては、日本企業時間大井ヒガシがって書いてある、これニシカワ。

0:48:23	比べて大きい減衰になってる可能性が示唆されるといった、
0:48:27	印刷をされているんですけど、
0:48:31	今回、追加調査の結果だけでこのページの説明が進められていて、
0:48:37	ミシマ地盤については、1メートルしかない。
0:48:42	そのディレクターだけで、この中央よりも小さいとか、
0:48:46	何かいろんなことを言われ、
0:48:48	てるんだけども、
0:48:50	これは今後もこの方針です。はい。
0:48:53	企業データも含めた考察っていうのは今後どうしていくのかなというところをちょっと教えていただけますか。
0:49:02	はい。日本円のガスでございますおっしゃる通りでして、この章ではちょっと追加調査で獲られたりした件数だけの話になってしまっているんですけども、今後さつき110ページ、四角で書いているところの7ポツにありますような、
0:49:16	何ていうんでしょう。支店間の相対的な分析みたいなところを7ポツで今後書いていきますが、その中ではいわゆるエリア内ちゅうかその西側地盤の中でも相対的な比較というところはやっていく必要があると思っておりますので、その中で今岸野さんおっしゃってありましたような、
0:49:33	西側については既往データ一つ、あと新追加データ一つなんですけどもそれぞれのデータがこういう関係性になっていて、それが例えば一緒と見なせるかとかあと他の中オオヒガシと比べてどうかとかっていう考察がここに変わるようなイメージを持っておりますので、
0:49:48	そこの機能で蓄えた検討というのは今後広がるものとなっております。
0:49:54	はい。
0:49:56	はい。
0:50:02	基本データによって、必ずしもこのBorって、
0:50:06	前からシンボテライサトウ。
0:50:09	内容までたまったかな。
0:50:11	しております。
0:50:15	うん。
0:50:16	今検討中ということですね、今後の。
0:50:21	ば、
0:50:24	その関連なんですけど、
0:50:26	ヒガシここにも書いてあるように、東側ではS波速度が結構関心へ。



0:50:34	一番の方でもないようなことを柿木君企業でいうとちょっとその評価変わってくるかもしれないんですが、
0:50:41	定数っていうのは、岩種ごとに細かく分けて設定する。
0:50:45	はい。
0:50:46	看板の中で複数の文書があって、笹プロの、
0:50:52	その中で示しているんだけど、長酒匂。
0:50:56	地点ごとに一律に減衰定数を定めているので、
0:51:00	全体のVsの傾向、
0:51:05	というような大小関係と減衰との大小関係。
0:51:13	そのあたりは、何か、
0:51:16	ナツメ検討ってのは進めている。
0:51:19	のお考えなのか、教えていただけますか。
0:51:25	すいません日本原燃のオオハシでちょっとすみません、音声がごめんなさいこっちの通信状況かもしんないんですがとぎれとぎれだったんで聞こえた範囲ですいません。お答えしますが外していたら、
0:51:35	ご指摘ください。牧野さんのご指摘にちょっと聞こえた範囲ですが、基本的に減衰定数というのは岩種というかそういうようなところごとに細かくられればそれが本当は一番いいところなんですけれども、今回我々お出ししているものにつきましては、
0:51:50	例えば 111 ページなんかにあるように、コウで一つ、つまり岩盤の岩盤で、その海洋基盤以浅の岩盤で一つというようなところで、オダしているところについて、先ほど申し上げたような、細かく見る必要はないかというようなところの話。
0:52:04	うん。認識しておりますんでそこをちゃんと、どういうふうに考えているのかということをしていただくというふうにしております。今回このSR検層のものにつきましては、行って帰ってきた波というようなところを拾ってあげて、それをその比率をとってあげて、周期ごとの減衰定数を出してあげているというところがございますけれども、
0:52:23	そこに基本的に中央と西側につきましては、大きな何ていうんでしょう、速度のコントラストがないということもございますので、基本的にはやはりこれ実態として見た方がある、ある程度全体的な、
0:52:35	構成として、減衰定数の構成として見やすいのではないかというふうなことを考えてございます。これを分けてしまうっていうところがやはり分けてしまいますと、取ってくるパス、想定されるパスというのが非常に複雑になってしまいますので、

0:52:49	何でしょうその減衰の上から下まで全体で見ると、下と上との、分けた時のバランスというものを、精度よく見るというのは非常に難しいというふうに考えており
0:53:00	ます。ですのでちょっと中央と西につきましては少なくともこのように、今お示しておりますような一つの層として出してあげるとするのがむしろ一番適切なのではないかと考えている。それが、
0:53:12	さらに、こっから先ちょっと書かなきゃいけないなと思ったところなんです。今我々がちょっと見えてないカセアノアノキシノさんのご質問は、
0:53:23	ちょっと私の理解では外注ごとに別に設定しなさいと仰ってるわけではなくてですね、このですね岩種ごとにももちろん物理的にはあるんだけど、
0:53:34	実際にこの下水設計するときには、この地盤全体で設定するようなものとなることを踏まえてそしたらこの応急1ヒガシだとこの全体のVsの傾向と減衰の
0:53:47	傾向の相関について何か分析するようなこと考えはないのかと、いうふうにおっしゃっていたんだというふうに思うんですけども、そういうことをせん通りですね、今の説明だと結局よくわからんと思ってる説明になってるんで、そこはもうちょっと明確になってくるのかどうかという、
0:54:06	そうですね。だから、全体の部位数のキクカワニシダ支給をそれぞれあることと、今回のられた減衰の傾向との間に、何か相関がないのかというふうなところの検討をする。
0:54:21	ような予定はないのかねというふうにおっしゃっているんだと思ってたすみません私の言い方をもって、そうすると細かく岩種ごとに減衰を設定すべきととられかねないなと今思ったんで、
0:54:32	今、三野さんおっしゃった通り、そこまで求めているものではなく、多分そういう観点から見ると、このうまく傾向がそろっていないことについての説明がつくのかもしれないなと思う。
0:54:43	これはあくまで私の想像でしかないんですけども、そういったいろいろな角度からの考察っていうのを考え、
0:54:50	どうするん予定でしょうかという、そういう趣旨で、
0:54:56	おばあちゃんとすべてすみません、その上ですいませんお願いします。
0:55:00	日本原燃オガセで大変申し訳ございません。ちょっと勝手に突っ走ってしまいましたかしこまりました。そういった意味でいきますとこの7ポツのところ、

0:55:11	例えばこの 111 ページに書いているような中央地盤の中でのこの今六つ横に並んでますけれども、この中での相対的な比較ということ、7 ポツの中でやろうというふうに考えております。その中では当然この足の
0:55:25	この六つの穴の中での速度も、当然河床はちょっと違いがありますので、それと、今ここ、今回出てきている減衰定数の大小関係が相関性があるよあるのかどうかというようなところの確認をしてあげるってところを考えてございます。
0:55:39	その中で、見てあげたときに例えば中央地盤の中でも固いところでは、例えば減衰が小さいですとか、もしくは、逆にもうこれはもうランダムの関係性しかないですとかそういうようなちょっと考察ができると思いますので、その結果でもって、今回中央で取れている
0:55:54	場所ごとの減衰定数というものの位置付けとかその大小関係の相関性というところに関しての分析、考察というものが加わると思います。はい。ちょっとそういうところを加える予定では、
0:56:05	以上。
0:56:09	わかりました。今後検討されると思うので、
0:56:12	言えないと思いますけど、今のご説明は、衛藤Vsがほとんど橋ごとに変化して、重要地盤で地点のVsと減衰との、
0:56:22	相関関係を見た上で、これがヒガシアシダたらどうなるのかってところを推定するのかなという、御説明方も理解しました。そういう理解でよかったですか。
0:56:34	はい、日本原燃のオガセですおっしゃる通りですね中央だけではなくて当然ヒガシも、西はちょっと今、1 個と企業が 1 個追加が 1 個しかないのでちょっと二つにはなってしまうんですが、そういう間ものでありましてもできる限りの範囲でそういった分析の方は全中はやりたいと考えております。以上です。
0:56:51	規制庁、わかりましたけども。
0:56:54	検討いただいています。
0:56:55	させていただければ、
0:56:59	110 ページ海田。
0:57:05	はい、規制庁さん、
0:57:06	はい。
0:57:08	よろしいですかね。
0:57:15	ちょっとあった。
0:57:17	はい。

0:57:18	規制庁の宗です。
0:57:20	134 ページ。
0:57:29	うん。
0:57:30	堂本さんからご説明のあった、中央地盤観測地点についての分析です。
0:57:35	これは許可の時における判断だという。
0:57:40	本当の説明を漏れていたという、ご説明。
0:57:46	その許可のときの判断の説明だとしても、
0:57:52	この説明で許可が終わったんだらうかというのが少し、
0:57:56	わからない。
0:57:58	で、
0:58:02	真ん中ぐらいのパラグラフ仮に行って、
0:58:06	ですが、
0:58:07	仮に、
0:58:11	鷹架層下部層が影響を与えるとしても、
0:58:15	車椅子 20 メートル以浅の、
0:58:19	連動させることで表現が可能なんで、
0:58:22	問題はないと判断したっていうのは、
0:58:29	すいません、もう少し、
0:58:31	質問しますと、この説明だったヒガシが地盤と違いがないな、東側地盤だってこれで説明できたんじゃないかなと思ったんですけども、東側地盤と中央令和の内田イクノ。
0:58:43	という観点で、
0:58:45	説明。
0:58:48	日本原燃のオガセでございます。すいません今この 134 ページの文章でちょっと間違いがあったというのは、一番上の三行のところでございます。
0:58:59	はい。こちらの一番上、134 ページの一番上の三行で、初期モデルの設定にあたり、PS検層に基づくS波及びP波速度をそのまま設定したというのがすみません、間違いでしてこれ本当はあの、
0:59:10	許可の際に設定したはぎとり地盤モデルのVs、Vpを設定しているというところになります。で、その初期物性値というところに対しまして、そこが間違いですというところでございますんで、その上で、さっき千野さんおっしゃってた通り、

0:59:26	これ西側中央西側と東側とはちょっと観点が違うことが書いてあるところがございます。端的に言いますと、西側東側では、ちょっと138ページの図なんかをちょっとご覧いただきながら、一応ご説明したいんですが、
0:59:41	はい、138ページこちらはあの西側のところなんでございますけれども、この地質構造の傾斜とか、あとヒガシだったらアノ断層の影響というところを考えたときに、これをちゃんと再現してあげるためには、この青の一番右側の青のコウ、
0:59:56	括弧というか、囲みのところですね、のところのどこか間に、そう強化で新しく加えてあげないとちょっとやりようがないここを一定速度層として与えてしまうとちょっとうまい量定ができなさそうだなというようなところ。
1:00:08	ヒガシも同様のところで、本協会を1個加えなきゃいけないという方策というか、検討になっております。一方で中央地盤の方につきましては、135ページをちょっといただければなんですけれども、
1:00:21	はい。こちらのちょっと補助線とかをちょっと後で書きたいと思っておりますけれども、一般、上から2番目の層ですかね。鷹架層中部層の上部半分ぐらい、AVSでいうと0.62メートルパーセク出ているところの層があると思うんですけれども、大体この辺りの層が
1:00:40	ちょうどこの、これ、
1:00:43	左側の地質図で言いますPPSIIというオレンジの一番の部分に対応するところになっております。ただ一方でこのオレンジの地盤が対応するような深さのところでは、すぐ隣に、鷹架層の、これは細粒砂岩層ですかね、薄紫の層が上がってきているところがございます、
1:01:01	それが大体このオレンジの相当上がってきている紫の層というのは大体同じぐらいの厚さにいるところになって、
1:01:08	ですので、ここというのは、あくまでこれがどっちの影響が大きい小さいかという観点で、どっかに途中で層境界をつけるというよりは、この0.62の層をVsをこう上げたり下げたりすることで、十分にこのアノそ、
1:01:21	伝達関数の再現というのは可能だろうというふうなことを考えまして、あくまで西ヒガシと同じように、操業は1個多数とか、そういうような必要性はないだろうと、そういうふうな判断をしたということをちょっと前のところの文章で書いてあるところでございます。
1:01:35	はい。すいません説明になりましたが以上です。
1:01:42	協力します。はい。今のご説明がその事業と石橋と違うように、
1:01:48	神戸都丸は、

1:01:55	推定という形で出ておる。
1:01:58	わからないんですけれども、
1:02:00	もう、
1:02:01	今んところ、許可のときは、今回、西東のような、
1:02:05	その境界の分割というところまで踏み込まなくても、同定できた。
1:02:10	ということになる。
1:02:14	これ僕なるのは
1:02:16	中央はそれですんですけれども、1ヒガシはそうはいかなかった。
1:02:22	考察までは、
1:02:25	推定でしか述べられないと。
1:02:27	いう。
1:02:28	状況であると。
1:02:31	日本原燃の大橋です。佐々シノさんおっしゃったところの前半部分はある通りのところでございまして、後、許可の時には、中オオニシヒガシ、それぞれのすべての地盤において、こういう
1:02:45	地質構造、イトウ協会の通達等というところまでは踏み込まずに、ある程度の何ていうんでしょうかはぎとり地盤はぎとり解析が可能なはぎとり地盤モデルができたというところでした。一方通行に大手のこの地盤モデルの
1:02:59	確認をしているに当たりますは、やはり新しい地震を考慮したりですとか、新しい地震計が振幅の大きい地震でありましたので、そういうサンプル数が増えたことを踏まえまして、それぞれの、そういったものも含めて、あのさ、きちんと良くなるような、地盤の同定をすればしたら、
1:03:15	西ヒガシについては荒谷層境界を設ける必要性が出てきたというようなそういうようなところの位置付けになるかと思っております。
1:03:29	じゃ、これ。
1:03:34	逆に今西ヒガシはちょっと中央と違って、
1:03:39	それは、今言われたような経緯を踏まえて、
1:03:43	ちょっとてこずった経緯が、
1:03:45	辺りが、事業者の方で、一応説明があると。
1:03:49	もし、まだ書き足す余地があるのであればですね、そこは、
1:03:53	もう少し書き足していただいていると思いますけれども、
1:03:56	御説明。
1:04:01	下の方でございまして。まだそういうおっしゃる通りかと思うので今日はその許可の時ののはぎとりを取ってきて、

1:04:11	甲斐これで東電と監査をうまく引くんだけれども、1月についてはそこを てこずった
1:04:20	経緯を踏まえて、こういう分割の検討をやったんだということが、ちょっと 追記すれば、おそらく今の話もクリアになるかなと思ってこれを追記した らいいかなと思うんですけどどうでしょう。
1:04:33	うん。はい。日本原電オガセですおっしゃる通りかと思います。今の136 ページの一番上の段落の6行、7行ぐらいあるんですがそこに経緯み たいなところは書いているんですが、そこに今申し上げたようなところ許 可の時には、
1:04:49	どうだったけどというようなお話ですとか、それを解決するために何か層 境界を入れなきゃいけないなと考えたとかそういうようなところをちょっと 記載を出すようなことになるのかと思って、今聞いておりましたのでそう いう追記を入れたいと。
1:05:01	以上です。
1:05:04	はい。
1:05:08	私は1点ですね、290ページぐらい組んじゃうんですか。
1:05:30	ええ。
1:05:32	長周期成分ねみたいなの。
1:05:35	で、これ何の話をしてるというと、まず、図の番号が、
1:05:40	Tですが、247ページ。
1:05:46	皆、
1:05:48	へえ。
1:05:49	ここのこと、
1:05:51	いう話。
1:05:54	この赤と青が、
1:05:56	目的ちっちゃいんでみたいなの説明をしてるんですけど、これが、
1:06:00	何を、
1:06:02	補完するものなのか。
1:06:06	あって、
1:06:07	244ページの、
1:06:11	右側の括弧ESCO。
1:06:17	この辺の、
1:06:19	話。
1:06:20	言っているんですかね。

1:06:23	具体的にどこっていうのをちょっと示してるんです。はい。日本原燃の加瀬でございますまず 247 ページの図りえスペクトルのところを見ていただければなんですが、
1:06:35	この中で、検討に用いた 12 地震のうち、20140810 の地震と、1Q の二つの地震を赤線と青線で書いているところでございます。何でこの赤と青線の地震二つ暮らしにしたかといいますと、
1:06:50	さっき亀井さんおっしゃった図がそれだと、ババ 2014 だから、244 ページの右側の、
1:06:59	(8) の地震ですね、というようなところでございますけれども、ちょっと短周期側具体的に言いますと、
1:07:09	NS 方向の 0.2 秒から、ちょっと先のところですね観測記録をちょっと下回るようなシミュレーション結果になっているというところでございます。一方でこれ他の地震も見比べての話として行っているところとしましては、基本的にはどの地震も基本的には大体
1:07:28	何でしょう。
1:07:29	観測記録をよく再現しているんですけれども地震によってはちょっとこういう小さいところが出てくるというようなものがございます。そういったところの理由として分析してみたところ、やはりこの一定減衰と、何ですか、リニア減衰を比べたときに、一定県水っていうのは
1:07:45	従前から述べております通り、長周期側で減衰を、
1:07:51	小さくなる周期側では減衰を大きく見るといようなところになっておりまして、それがやっぱり長周期側の地震動が小さくなってしまいますと、そこがあまり効果になってくれない。やはりある程度おっきい地震ですと、かなり一定減衰とリニア型の減衰というのは等価になってしまうんですけども、
1:08:07	そうじゃない規模の小さい地震ということにつきましては、いわゆる長周期側の地震動をその減衰でかさ上げするようなどの効果、それで短周期側までの応答スペクトルを大きくしてあげる効果というものが、ちょっと値弱いのではないかとこのところに着目しまして、この 247 ページにあるようなグラフで書かせていただきました。
1:08:25	で見てみたところ、やはりそういうようなちょっと短周期が小さくなってしまいうようなシミュレーション結果を獲られている地震というのは、長周期側が弱い、この二つの地震、これがやっぱりそういう影響が顕著になってますねというようなところが案の定見れたというところでございますので、ちょっとその状況をちょっと記載させていただいたものでございました。以上です。



1:08:46	規制庁菅です。
1:08:48	まずその 244 ページで、
1:08:51	主ペットの重ねがいて、
1:08:55	見る目的ってなんだろう。
1:09:01	はい。こちらでの目的としましては、ここで黒と青と赤線があるわけなんですけれども、
1:09:10	黒が地震観測記録ですので目標値というところになります。これに対して、青と赤、リニア型で同定した結果と、周波数依存性なしで贈呈した結果、両方あるわけなんですけれども、それぞれが地震に関する記録をよく再現できているかどうかというようなところの確認をするために書いています。目的は、はい。
1:09:33	5 年、
1:09:35	244 ページの(8)です。
1:09:38	ウワー。
1:09:39	ええ。
1:09:41	ちょっとさわかるな。
1:09:43	自分が目指してたところよりもよく再現できてるっていうのが市田家なんてそうそういう事象があるので、
1:09:51	何でかっていうのを調べてみましたっていうのがさっき 200。
1:09:55	ページの話。
1:09:57	はい。日本原燃オガセさんのおっしゃる通りで、この 244 ページのところで、青と赤にちょっと差があるなあというのが見えたというところ、すいませんちょっと順番を追っています。
1:10:08	青と黒つまりリニア型のやつってのは観測記録を再現よく再現できるなあというところが見えましたが、ちょっと赤になると短周期が落ちているなあ。なのでそれが何でかなというところの確認を 244 ページでやったというようなそういう位置付けになります。
1:10:23	247 ページで確認したと、はい、そういう
1:10:29	規制庁カミデです。
1:10:35	もともとなんか 247 ページ。
1:10:38	今、
1:10:39	青 244 ページで、青と赤の会議、
1:10:43	これを説明したい。
1:10:46	はい。日本原燃大町ですおっしゃる通りです。
1:10:52	と規制庁から、クラウドのか。

1:10:54	関係ではないってことです。
1:10:57	はい。現年オオハシですその通りですこれは赤と青の差が何で出てきてるんだろうというところの分析です。はい。
1:11:07	ちょっと。
1:11:10	江藤、今の話の内容が 240 ページのちょっと文章。
1:11:17	英語。
1:11:18	どうなん。
1:11:25	私は紙ですよ。
1:11:41	これ、鷺見。
1:11:43	今尾長谷さんって、
1:11:47	私が映している。
1:11:51	44 ページに移って見えています。
1:11:53	はい見れます。はい。
1:11:55	ポイント動いています。
1:11:59	もう 1 回動いています、動いています。はい。
1:12:02	これが 244 ページなんですけど、
1:12:13	黒と
1:12:14	青とか黒と赤の話じゃなくて、
1:12:17	青と赤でさ、今私が示してる場所、ここの差を説明したいと。
1:12:24	そこと、あともうちょい短周期が 0.05 から 0.01 ぐらいですねはい。その辺の赤と青、
1:12:32	そこです。
1:12:34	これを説明した。
1:12:36	はい、そうですそのための数字スペクトルです。はい。
1:12:40	この 1 秒ぐらいのコウコウノさをもう説明。
1:12:44	これについてはちょっとお待ちください。
1:12:50	おっきくなってる場所の差はちょっとすみません、文章では説明していないんですが、
1:13:00	あったごめんなさい。
1:13:07	基本的にその観測記録、黒と赤青の差というところの分析はすでにしてあって、240 ページとかの文章に書いてあります。はい。説明済みです。
1:13:19	規制庁甲斐です。
1:13:21	はい。
1:13:23	今示した後青野さん、イチカワカトウ。
1:13:27	コヤナギ。

1:13:30	赤と青のサーの今の1秒ぐらいのところの赤が大きくなっているところについては、
1:13:43	その要因とか、分析まではしていません。単純にその減衰定数のその何ていうんですかねその傾向対照関係に対応するように、対象関係がなっていると、というような旨を、240ページの上の方の文章で書いてあります。
1:14:01	規制庁で堂々あるべきなんですか。
1:14:04	原燃として主体説明っていうのは赤と青が、
1:14:08	基本的に合ってますよと。
1:14:11	差がついているところもちゃんと説明ができますよっていうことを言いたいんじゃないんだとしたら、一通り説明するんじゃないのって感じなんですけど、何がしたいんですか。
1:14:21	はい日本原燃オガセアノおっしゃる通りで、赤と青については、こんぐらいの差があるけれども、その差っていうのはどういうものですかというものを全部説明してあげるべきだと思っております、
1:14:32	なので、まずは、長周期側がちょっと赤が勝っているというのは、やはり減衰定数を傾きつけているか、それともまっすぐ行くかの違いに対応しているものと整合的であるかどうか、一方でそのまま普通に考えたら、短周期側というのは、
1:14:47	減衰定数が一定減衰の方が大きくなるずに、ちょっと応答スペクトルとしては、ちっちゃくなってしまふ、赤が小さくなってしまふ可能性というのが示唆されますけれども、ほとんどの地震では、赤と青はほとんど一緒です。だけれども、今映していただいている何かの地震については、
1:15:04	ちょっと赤が小さいことになってしまってるけども、その要因っていうのは何なんだろうというようなところが、説明するというようなところの、はい。トータルの説明になると思っております。一応、240ページの文章ではソウノ内容は一網羅して書いているつもりではおりますけれどもちょっと構成はわかりにくくなってるか。
1:15:20	しれないなと。はい。今読んで思っています。
1:15:24	清長官。
1:15:25	原燃としては、何かやっぱり何が説明したのかよく。
1:15:32	この図だと、
1:15:34	黒、
1:15:35	黒と赤オノ整合性を言いたいのか。
1:15:39	赤が多い大きいよって言いたいとか、何かごちゃごちゃになって、

1:15:43	整理
1:15:46	はい、わかりました日本原燃オガセです今正直今上出さんおっしゃったように、この図は、その二つ黒と赤オノが合ってるかどうかのジャッジ、もう一つは、赤と青は、
1:15:57	どのぐらい離れちゃってるかというジャッジこの二つがちょっと入って、
1:16:01	図になっているところでございます。
1:16:04	安全のことです。ちょっと補足。
1:16:06	肯定してるのはもともとですね観測記録に対して、この同定したものが再現できてるかかどうかというのを見たいものですから、黒に対して赤尾が精度よくコウできてるかということをジャッジするために、
1:16:23	まずは作ってるやつということになってますんで、それでこういうふうな形で、このそれぞれの地震に対して地震ごとに、
1:16:33	それぞれ、こういうふうな規格の
1:16:36	観点で、重ね描いてみたのが、これであるというのが、ここのデータのもともとの位置付けになります。
1:16:43	こういうふうにならされたときに、概ねマナー、結構良い再現ができてるねというふうに我々、これを示すところではあるんですけども、
1:16:54	ただ中を見ていくとですね、赤と青の傾向の差っていうのは、もちろんその同点のですね理由によってこれ差が出てきて、
1:17:03	これは何がアーク起因してるものなのかということに対する説明を、その後段として、このデータについての詳細な分析を、
1:17:15	を記載していくと、いう駄目でこの赤と青ソウノを比較の分析というのを書いているというそういう構成になっているということになってます。
1:17:36	清深見です。
1:17:41	それは水素の話がいきなりここに出てくるのが、もっとよくわかんない。
1:17:46	ようわかんないんですけど。
1:17:50	とりあえずハタはクロイワダテ。
1:17:52	そうですね。そうですねはい。
1:17:54	イワイてますよ。はい。
1:17:57	周波数依存を、要は傾きをアクセスした時に、
1:18:02	その傾きをなくすことだけが条件なのか、うん、青井よりも大きくなるってことも、
1:18:09	条件として設定しているのか、もしくは、理論的には、傾きなくすと青い大きくなるってきっと自明だよなと思って書いて、
1:18:19	いるのかとか、その辺がよくわからない。

1:18:22	根本です。えっとですね、何か意図を持って、このですね周波数一定っていうのを、上回らせようと思って設計してるわけではないです。そういうのは、
1:18:36	だから減衰を同定するときの前提条件として、移転の減衰を仮定しているというだけであるからということではありますんで、はい。
1:18:47	ビジョンだとすると、あと青の詳細の今分析がここで出てくるのがよくわからなくて、目的、
1:18:54	黒、もうば黒と青クロダあかんはずなんで仲田オオノ分析が意見。
1:19:05	今日ですね、本日の議論の中でもあったんですけども、他のところを、の地震でいくと、この田崎側でもこれ赤と青っていうのは割とよく合ってる状態なんだけれどもこの地震、
1:19:19	が変えられてると、これは何でかなと。
1:19:22	いう議論があったように思っておりますし、それに対しての説明というのが、ここで加えるのが適切だろうというのを加えていくということだと理解してます。
1:19:37	規制庁です。そう。
1:19:40	どうしても。うん。
1:19:44	この話だったら、
1:19:46	黒に対して赤外れた終わってるけど外れてるっていうことを、
1:19:51	論じるべきっていう。
1:19:54	はい。赤尾って言われちゃうと何かロジックがおかしい。この場合は概ねいい線いってるんです。うん。赤がちょっとおっしやった。
1:20:05	そういう説明になるんじゃないですか。今の話。
1:20:08	そうですね。衛藤をセトリその理屈だけでいくと青と赤の会議を説明するような理屈になるんだけれども、結果として、青と、
1:20:20	マッチしてる黒と赤との差がなぜかということの説明にも繋がると。
1:20:26	いうことではあるのだろうなと思いますんでそこを、ちょっとあれですね、最初の説明の意図からちょっと糸賀切れたら全然いいなら良いと。
1:20:36	いうことだとは思いました。
1:20:39	ステップ
1:20:42	なんか、
1:20:44	これに対して赤尾両方ともずれて、
1:20:48	下の、
1:20:49	うん。
1:20:50	やっぱ削れて、

1:20:51	情報あつて、
1:20:53	両方のときは横ずれというのはこういうことです。片方の時はこういうことなんですっていうふうにちゃんと書き分ければ、まだわからない。はい。はい。
1:21:03	一応何が言いたいのかわかったし、そういう話だと、結局、こういう1秒ぐらいのところもちゃんと話をしてここだけじゃ、ここもプロット離れてますけどここに来ると。
1:21:16	うん。青はまあまあ、
1:21:19	がこれは何ですか、っていうところを説明する、すると、多分、一応、うん。
1:21:27	思いました。
1:21:28	とりあえず、
1:21:31	なので、その辺りはもう少し説明を経営してもらう
1:21:35	はい。全農でございます承知いたしました。
1:21:42	はい、規制庁、私からは以上です。他じゃ岸野さん。
1:21:51	292 ページをお願いしたいんですが、
1:21:57	下の方で下線を引いてある説明は、
1:22:01	次のページの下、
1:22:07	メディアバイリニアとS波検層
1:22:09	の結果の比較に対する、
1:22:12	説明の文章。
1:22:15	90 ページ。
1:22:17	下から二つ目のパラグラフは、このリニアバイリンガル。
1:22:21	ふうん。
1:22:23	うん。
1:22:26	地震はの低減、
1:22:29	それぞれの寄与割合までは、
1:22:32	改善しきれしていない可能性がある。
1:22:38	うん。
1:22:40	示してる。
1:22:43	はい。日本原燃のオガセでございます。これにつきましては、イワイといましては、今回 293 ページで書いている青ないし緑の線なんですけれども、
1:22:54	これっていうのはこれまでもご説明しております通り地震観測記録に適合させるように、速度構造と減衰定数の両方を 2 変数。

1:23:04	同定かけているというところで、出てきた減衰定数の値になってますと、一方でこちらのオレンジセンナ石、黒野アノ、郡さん線で書いているところにつきましてはS検層の結果というところで、減衰定数がある意味直接こう図ったものというところになってございます。
1:23:19	ここが乖離した理由というところを分析、いろいろとちょっとしてみたんですけれども、やはりこれ何ていうんすかね地下構造とかそういったところを考えてもやっぱりこの同定は同定で一応きちんとできているというところでSRSS件数にちゃんとデータとしてはとれている多少の谷はあるけれどもというところ。
1:23:37	そういった状況を見ますと、やっぱりこれどっちが核確定度というか正確性が高いのかなというふうに考えたときには、やはり減衰定数を直接はかっているエザワ検層の方が、おそらく信頼性は高いたらうというふうに考えております。
1:23:50	一方でどうしてこの青線ないし緑線の、
1:23:55	この同定結果がちょっと小さく出ているのかというところの分析をちょっといろんな種々地権者の方々ともお話をしたんですけれども、やっぱりこの変数として今回のこの西側地盤というのは、先ほども議論になりました通りちょっと断層の断層じゃない地質の、
1:24:11	傾斜みたいなところを無理やり1次元波動論の世界にこう落とし込んで、それをこうなんでしょう層境界をこういじったりかしてっていうふうにやっているところがありますので、どうしてもこの速度構造の自由度がちょっと与えられているところもありますので、
1:24:25	その速度構造での増幅のところと、減衰のところというところのバランス、当然地盤の増幅っていうのは増幅地盤の、その速度構造の増幅と、その減衰定数から出てくる地震波の減衰の両方がミックスされた状態での地盤応答として評価されますので、
1:24:42	ちょっとそこの層下、最終的な増幅ないし減衰の総和としては合っているような同定はきちんとできているとは思うんですけれども、やっぱりその減衰と速度構造それぞれ、どっちかがちゃんとフィックスしたような数字っていうふうにはちょっとなってない可能性ってのはどうしても捨てきれないなと、というところでやはりこの数、
1:24:59	なんていう制度というような観点ではSR検層の方がよからうではないかというようなところの、はい考察を書かせていただいているところでございます。以上です。
1:25:09	そうです。多分半分ぐらいイメージできたから、
1:25:13	ました。

1:25:15	増幅と減衰の。そうやって、
1:25:18	何ですか。
1:25:20	観測データの同定には、
1:25:24	これが、
1:25:25	聞いてきてその辺わかってる。
1:25:27	だけど、
1:25:28	その両者のそれぞれの配分というか比率は、
1:25:34	この観測結果、
1:25:36	に基づく分析の減衰定数が何か問題があるのかないのかその辺り、
1:25:43	はい。日本原燃のオガセでございます。岸野さんが先ほど、今、今ほど申し上げたご認識の通りです。その配分が確定できるかといったらちょっと確定できないねというところに問題があるというところにあります。
1:25:56	ですので、ここについては監査観測記録の同定結果というのは問題があるというような問題があるという言い方がちょっとあまり、
1:26:05	個人的には微妙かもしれないんですけども、諏訪検層に対してはちょっと一歩を取るかもしれないという、そういうような位置付けだと思っております。
1:26:12	セノクチ。はい。
1:26:15	さらに少し理解、
1:26:17	気がしますが、
1:26:21	説明がですね、
1:26:23	非常にこう、ぎゅっと縮めた文章。
1:26:29	桐谷元
1:26:32	ウォークがちょっと、合計における、
1:26:36	構造の設定を、
1:26:39	見たり、
1:26:41	PR、
1:26:42	各、
1:26:43	した減衰定数に対応していったということをイメージすると、今言われた説明で理解しやすいのかなと思いました。そういった説明がないと、
1:26:55	このまま結論だけ読んじゃった。
1:26:58	基づく減衰定数は、
1:27:01	再現できない。
1:27:03	信頼性が、
1:27:04	観測記録、評価を、



1:27:08	どうなん。
1:27:09	あまり信頼できないものとしているような印象も受けちゃうんだけど、観測記録を、そこまでおとしめるものではなく、ただ減衰に着目したときには、
1:27:22	左右の減衰の方が優位性があるだろう。
1:27:26	いう。
1:27:27	ことを説明したいのかなと思いましたけれども、
1:27:30	もしそういうことであれば、
1:27:32	もうちょっと誤解のないように説明した方がいいんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。
1:27:37	はい。日本原燃のオガセですおっしゃる通りちょっと誤解のないというかちょっとすいません。何か言葉とや何か考えていることが特定しにくいような言葉遣いになってたので、もうちょっとそこはちゃんと
1:27:49	細かく書きたいと思います。あとはこの差がなんのなのかっていうところの分析っていうのはまさしく今後追加される考察の中でちょっと今いろいろとやっているところでございまして、
1:28:00	さっきハバサキさんともしてお話させていただいたようなシミュレーションでやった時に若干の撮影等に本当に影響する柱とかちょっとそういうようなところのシミュレーションを絡めた上での考察が今後追加されますのでちょっとこの後に、はい。
1:28:13	そういったものも追加されるような形になっていけば、このサノ扱いというところも、はい。ちょっと明確になるような、最終的には資料になるのかなというふうに考えております。以上です。
1:28:26	うーん。
1:28:27	うん。
1:28:28	3 ページ後、295 ページ。
1:28:32	東側観測地点或いは東側のSrデータについて、
1:28:37	説明がカセ。
1:28:39	あるんですが、
1:28:42	下、下二つのパビリオン。
1:28:45	西側で述べた 293 ページの文章、そのまんまなんですね。
1:28:50	ニチバンは、地下構造、傾斜、
1:28:54	東側断層の不連続っていう言葉の機会はあるんですがそれ以外は説明が 1 字 1 句変えていないところにいると。
1:29:04	シバも東側も全部これで説明できてしまうのか。

1:29:08	東側については、随分やってみてよくやるように、西側に比べてもS波と観測記録との乖離が非常に大きいわけで、
1:29:16	そのときに、分析の説明を求めた気がするんですが、
1:29:20	こういう同じ説明ってのは、現在、
1:29:24	この辺りかな。
1:29:26	説明。
1:29:27	はい。日本原燃の大橋でございます。今ちょっと文章と一緒にしているというところでございますが、やはりこの地質構造とか踏まえてちょっと見ても、こんなに差が出る観測記録への御説明するようなところと、
1:29:41	そのエザワ珪藻でてきた結果というところの差が出るところの説明というところが、ちょっとやっぱりそういうも脳に金地下構造とかに起因するものというものがちょっと見ていけられないというところでございます。
1:29:54	やっぱりこれについても東側のこれについても、西側と同じように、いわゆる1次元波動論の世界に同定の際に無理やり落とし込んだ際に、速度境界をちょっと新たに作ったりとかそういったところが、
1:30:07	ちょっとしたそういう何ていうんすかねS速度の、
1:30:10	動かんと、減衰定数を同定するの配分についてちょっと悪さをおよぼしてるんじゃないかというようなところの、はい要因になっているというふうに考えておりますので基本的西側と東側というのは同じ要因なんじゃないかなというふうに考えているところでございます。
1:30:26	当然こちらにつきましてもその大きさの乖離の他、赤い大きさの大小というところの分析と、その大きさがそのシミュレーション上影響するのとかそういうような分析を、西側と同様に行うことで、両方についてその乖離の大きさの差、
1:30:40	も含めた形でそれが応答に対してどれぐらいの影響あるかというところの確認ができるかと思っておりますので、そういうことをやれば同じ理由ではあるけれどもその影響の大小というところの分析までは、西ヒガシそれぞれできるのかなというふうに思って今ちょっと分析の方は進めているところでございます。
1:30:57	以上です。全然ノモトです。緒方さん、こっつて、今おっしゃってたような話が専門家の皆様ともちょっと相談したところではあるんだけど、

1:31:08	西と東、帰りの度合いがこんなに違うのって、何か他に説明できるものがないのかといったようなところも、ちょっと練っておきながら議論はしたけれども、
1:31:20	そこについての明快な何かこの地殻構造に紐づいたような説明ってなかなか難しく、この今書いているような説明の、
1:31:33	大庄は何かへ出てるんだらうねと言ったようなところを、がわかってるところでわからないところが残ってるのは残ってると思うんだけど、わかってるところだ形を今書いている状態にあるって、私そういう理解してるんですけどそれでいいかしら。
1:31:52	はい。日本原燃オガセですその通りです。
1:31:59	多分わかってないところ。
1:32:02	それを今後オカせるつもりだって大庭さんのご説明だと思うんですけど。
1:32:07	本当にそうまくいくのかなと思ってちょっと。
1:32:10	これも引き続き、現在検討中ということで、ここはもう少し説明を補強されてくるのかもしれないんですけど
1:32:18	者が支援者の方々、
1:32:21	知見のない、
1:32:23	どうしてもやっぱりわからないというか、説明しきれないところもあるのかもしれない。そこは何を、
1:32:29	ここは、これはわからなく進めていいですよっていうところは明確にした上でですね。
1:32:35	音響していただくなんて話。
1:32:39	引き続き
1:32:41	もうそ
1:32:50	はい。
1:32:53	ちょっとイエス規制庁ハバサキですさっき
1:32:58	尾川さんと関係とのやりとりの中でですねこれで今の資料 08 の資料って、今までやってきたことをこう積み上げてる資料。
1:33:09	なんで、それはそれでいいんですけど、これから集大成させる中ではですねやはりもう少し
1:33:15	編集というかご構成のを工夫が必要かと思ってますので、
1:33:20	例えばさっきのリニューアル等といって周波数一定の話なんかはですね、資料でいうと 220 ページに中央地盤で出てますよねで、

1:33:31	まずこれ 220 ページGの図で、これ会議の時の資料では 0.1 秒から短い 1 秒から長い周期については、ある意味御会葬の扱いというふうに確か、
1:33:43	ハッチングしたんで、そこはきちんとやっぱりしてもらいたいということ。
1:33:48	ただ、0.1 秒から 1 秒の間っていうのは、リニア等、一定の赤と青ってそんなに差がないんだけど、出ていくより短い、1 大井長い周期についてはやはり、
1:34:01	リニアと一定のその傾向の差ですね、減衰に対するは減衰であったり下の減衰小さ過ぎるな傾向が出てくると、いうのがまず、特徴があると。
1:34:12	それを踏まえて、応答スペクトルの方、先ほど 200 呉 90 呉 230、
1:34:19	例えば中央地盤ですと 232 ページですか。
1:34:24	応答スペクトル、応答スペクトルの図で比較しましたと結果をシミュレーション、観測等のシミュレーションをしました。この図も、
1:34:34	0.1 秒から短い、1 割ないところ、これ制動が入りますよね。
1:34:39	で、それで、
1:34:42	だから、0.1 秒から 1 秒の間っていうのは比較的、赤と青の差っていうか、さっき減衰ではあまりなかったわけですので、
1:34:52	そうは言ってもそれよりも短い或いは長い周期では、減衰の差ってのはより顕著に出やすいところだということ、そういう順を足すことがわかってきたことをきちんと説明してもらいたい。
1:35:04	赤の 1 秒ぐらいがこう突出するのは、これ、230 ページかな。ごめんなさい。130 ページかな。
1:35:12	下の方は山の方にも書いてありますけども、これ、
1:35:15	GL-200 呉をアンカーとしたような伝達関数ですよ。ですからどうしても、
1:35:20	2 番、
1:35:21	としての全体系としての、この節のものを、
1:35:28	基盤と、基本とする伝達関数なんで、どうしても上に行くほど、そこを今度ピークにするような伝達関数になってくるので、こまこま角みみたいなものが出てくると。
1:35:40	ただ、周波数全体領域でフィッティングさせるということで、ある意味 1 秒だけは、
1:35:47	実際よりも、
1:35:48	シミュレーション、エアー観測よりも大きな、

1:35:51	どうしても出るっていうのこれはもう今までいろんなところでわかってるわけなんで、そういう傾向がまず1秒ぐらいある、ありますよと。で、特にそれが赤の方では、
1:36:03	減衰は大きいんですけどね。ごめんなさい現地が小さいんで、
1:36:07	より出やすくなってますよという話ですよ。
1:36:11	で、
1:36:13	そういう結果も含めてカトウ、ごめんなさい。赤尾と黒の差っていうのはでもはこんなもんですねと。
1:36:21	で、片や今度短周期のところに行くと、片野差っていうのは顕著に出て、赤の方が下限水位なんで、どちらかという、シミュレーションすると落ち落ちる方法ですね、観測記録も小さい。
1:36:33	で、それが特にA地点地震では、そういう傾向が顕著に出てきたと。
1:36:38	ということが全部繋がってくる。
1:36:42	わけなんで、そこら辺今回一連の作業の中で、事業者として、獲られた知見ということで、
1:36:49	そそれが非常に重要なところだと思ってますんで、そういった文章がです本本来230ページぐらいのところ、
1:36:56	書かれているべきなものがちょっと今までこう積み上げてきたものが、
1:37:01	経時的にこう書かれてるだけなんで、理解がしにくいというところですので、
1:37:07	1回ちょっと立ちどまってというか、もう1回見直す形です、しっかりカワセしてもらえればわかりやすくなるというふうに思います。
1:37:17	はい。
1:37:20	小形さん理解いただいていますか。はい。日本原燃をはじめまさしくおっしゃる通りだと思いましたが各検討で積み上げ積み上げでちょっと作っていたので今わかりにくいですが、まさしく今アノハバサキさんがおっしゃっていたところを最初から最後までおっしゃる通りのところでございますので、ちょっとそれがちゃんとまとまった、この
1:37:37	検討から、られた知見みたいなところをちゃんとまとめるようなところをきちんとちょっと書きたいと思えますそうすると多分はい。今、先ほどまで議論あったようなところもメーカーになると思えますので敗訴の対応はぜひさせて、
1:37:50	はい対応お願いします。以上です。
1:37:57	三野さんなれば、
1:38:00	次は、別紙2-4ですけど、

1:38:04	別紙 2-4 は、データが追加になっていて、414 ページ。
1:38:12	の、
1:38:13	はい。
1:38:14	なんか、前よりを与える。
1:38:19	傾きがあってきていて、
1:38:22	なんか、これぐらいだったら一緒ですっていうのは、うんって感じはするんですけど。
1:38:27	なぜこういう、
1:38:33	改善。
1:38:34	ていうかなぜこういうデータになった。
1:38:39	410 ページの図だとよく、
1:38:43	ですね。
1:38:48	等で、
1:38:50	412 ページぐらいになってくると、その一番、伴根井の一番下に、地下水観測孔というのは、このデータは、
1:39:03	ことによって、
1:39:05	さっきのデータの傾きの合い具合っていう、
1:39:08	に出てきたのかなと思っているんですけど、ちょっと、
1:39:13	そういった辺りの解説をいただけますか、どういうデータが追加になったから、414 の、
1:39:20	結果になってますっていうのをちょっとお願いします。
1:39:23	はい。当然設計者でございます。
1:39:25	今神谷さんがおっしゃったことでございますが、
1:39:29	この 412 ページで、
1:39:33	前回、示したのはこの一番下に、W&WIIという 1990 年以前の、
1:39:39	追加、以前、追加間か水観測孔というやつがなかったデータで、まとめたものですね 414 ページの
1:39:49	図 3-4、図 3、4-5 図の左側の絵でございます。この図はですね審査会後に出たときに、カミイチさんの方から、
1:40:01	この青のですね、1999 年の深度依存がないよねっていうふうな話をされたということで、この時にですね、1999 年、
1:40:15	の、
1:40:16	エリアでですね、すぐに速度が測定できるボーリング孔がないかと。
1:40:22	ということで探しました。それで、
1:40:25	492 ページを、

1:40:28	見ていただきたいんですが、
1:40:36	この参考の 6-4、
1:40:40	このページですけども参考 6-1 の図の 2 というところにですね、このブルーでハッチしてる 1999 年の埋戻堂のエリアのところですね、
1:40:53	左左の下といいますか左側のナンバー9、ナンバー8 と書いてあるところと若干重なってますけどもここにw案という地下水観測孔がございます。あともう一つ、
1:41:06	WII というのがですねFAタテアノ上のところにですね、ございまして、この二つがですね、1999 年の以前の梅本指導で、
1:41:19	深さがですね 12 メーター、12 メーター以上あるというボーリング孔がこの二つあったということで、このW1 コウとW2 コウを、12 月の第 3 週の金曜日、
1:41:32	PS検層を実施いたしました。その結果を入れたものがですね、
1:41:38	412 ページ。
1:41:40	先ほど見ていただいている 412 ページの下に、一番下のところがございますW1 とW2 という。
1:41:48	ここで言うところの寒色系、ブルーでですね、ブルーとグレーで書いてございますが、この 2 行がですね加わりまして、この 2 行についてはですね、
1:41:59	地下地下水観測孔でございますので、ローテが取れてないということで、速度構造だけの話になってるということで、410 ページの方のデータセットの方には含まれないんですけども、
1:42:11	速度構造が速度構造を離散化した結果ですね、先ほどの 414 ページの右側のですね、全ボーリングというふうな
1:42:21	ものを、結果になってございます。これ前回からもしておりますように全部全ボーリングのVsをですね 1 メーターごとに参加しまして、
1:42:32	その平均値を手でしろT谷崎重量、
1:42:38	この平均値海域の平均値でございますが、それを $\rho$ VSアノVsを入れて、書いたものでございます。で、それを書きますと、この 414 ページの全ボーリングというふうなデータのところで、
1:42:52	1999 年以前の青野海域と、2000 年以降の赤の回帰、
1:42:59	がほぼオチアイより近い形になりまして、この中に破線 1 点破線で書いてございます。もともとの事業許可申請書のですね、

1:43:11	埋め戻し度の海域にほぼ近い形になっていると。で、ここまでですね一致してくればですね、この二つのものをですね分ける理由というのがですね、ないということで、
1:43:23	埋め戻しにつきましてはやっどこまでいろいろとご指導いただいて、追加ボーリングをした結果ですね、ほぼ平均でいいのではないかというふうな答えが、あまり無理な説明をしなくてもですね、
1:43:35	できるようになったというふうなことで下、ここに示させていただいております。
1:43:42	これ、413 ページのVsは、これは今回とったW1Wを、
1:43:52	形での、VSVISAとフェイスを整理してるんだけど、
1:43:59	以前、この追加今日サーのデータが、追加調査というか今回とったデータがなかった時には、0.3、
1:44:11	広めたバイスぐらいのところ、もうほとんど頻度がない形でストンと下に落ちていたものが、今回、データが取れたことによって、この深度依存が、比較的
1:44:23	明瞭に見えるような形になってデータが改善し、そういうことができるものでございますが、唯一のデータといいますか単独のデータではですね、
1:44:34	先ほどご説明しました、W案とですねナンバー8 というのはもう近隣にございまして、ほとんど同じ答えが出てきます。でも、
1:44:44	もう一つ追加しておりますこのW II というやつがですね、若干ちっちゃい答えアノ。
1:44:49	413 ページの薄いブルーなんでございますが、こういうコウもですね存在しております、
1:44:57	こういうばらつきも合わせた形ですね、
1:45:01	結果的にですね、この全ボーリングがですね、真ん中の中に入るというふうな結果になっているということでございます。
1:45:17	No.8 とW
1:45:20	1 が、
1:45:23	結構詰めて、
1:45:25	えっとですね、ちょっと見にくいんで、別のページでご説明させていただきますと、
1:45:30	462 ページ。
1:45:32	にございますが、
1:45:34	これは新しく追加したですね、W案分。



1:45:39	で大体、
1:45:41	震度 5 メーターから 10 メーターが 12 メーターまでが 0.31。
1:45:47	心深くなりますと 0.33 という、そこ、
1:45:51	構造です。それに対しまして、もともとありましたNo.8 というのが、441 ページにございます
1:46:01	この 440。
1:46:05	上 30.33 で、下がすいません、眼鏡って新居さんで、下が 0.33 で、
1:46:13	W&ですNo. 8 っていうのはほとんど同じ速度構造。
1:46:16	になってございます。
1:46:20	でもですね、これデータをとればとるほどですね、いろんなデータが取り込まれますので、
1:46:27	平均的にはですね、今回、結果的に、この 414 ページのところに示しますようにW II というのが、若干低い速度構造でありましたために、
1:46:37	平均をいたしますと、このG0 分布が、既往の事業化申請所を出しております平均値とばらつきの中に、うまく入っているというふうな結果になってございます。
1:46:48	で、これは 2、3 形ですね形で全部同じ重みつきということで、実施しておりますが、
1:46:57	その前に先ほど 410 ページニワっていうふうなことがございましたけども、410 ページ自体はですね、これはデータセットと言いましいて言っておりますVsと、その
1:47:09	深さ方向を今回は追加したやつは 2 メーター間隔で、6tを取りまして、それでG0 を出したものでございますが、この結果を見ていただきますと、もともとの黒で書いてあるのが、事業許可申請書の結果でございますが、
1:47:24	その申請書の結果よりもですね、今回、15 行追加しましてデータをふやした結果の方がですね、平均はほぼ一緒に、
1:47:34	ばらつきもですね、青井より赤が内側に入っているということで、前回のですね、予測モデルで、その将来的な、今回追加したことを将来的なモデルだと言いますと、
1:47:46	将来的なモデルが説明できるということで、実際にはこの予測モデルで良いとかですね。はい。もうそういう
1:47:54	とりあえず、
1:47:56	W1W2 が増えましたね。で、
1:48:01	W1 とナンバー8 はもう似通ってますね。

1:48:06	ですね、実際同じぐらい。
1:48:08	小さく分のところが、WH打倒 20 メーター付近からコンクリートとなっていて、
1:48:17	ナンバー8 だとそこは岩盤なってるのかな。これはどういう違いですか。そうですねこのところこの部分のところはですねむしろにあったということで多分、
1:48:29	共管になってるかもしれないですね。
1:48:32	ナンバー8 ですよ、No.8 と。
1:48:36	20 メーター以下、
1:48:40	ナンバー8 のところはこれ岩盤が 20 メーターで出てて、W案の方は、この下は、
1:48:46	コンクリートがちょっと今コンクリートって書いてありますけどもひょっとすると、
1:48:53	一番改良かどうかわからないんですけども多分固いものが出てきたということでこういう表示にしてるんだと思いますが、
1:49:00	ちょっとその辺は確認いたします。
1:49:03	はい、規制庁笠野オランダ
1:49:06	時期的な問題もあるのかな。こんな深いところそんなに変わるのかって感じはしますけど。
1:49:13	うん。
1:49:14	その構造の次回わかってわからなかったの、ちょっと地質区分の、その辺はもうちょっと、どういう状況なのかっていう説明してもらえると、
1:49:25	あとは、
1:49:28	そうなる、
1:49:29	なんでこれ、
1:49:43	W2-0。
1:49:44	結構大きかったってこと。
1:49:50	そうですねだから、ここで当然設計のものでございますが、No.8 とですね W1 を入れたとしても、W2 で、
1:50:00	かなりこの平均値が引っ張られる。
1:50:04	いうふうな結果になってる。
1:50:06	ね。
1:50:30	67 ページで言うと、
1:50:36	W2 っていうのは、15 メーター付近だと、d. 26 秒ぐらい、添 2、
1:50:45	6 キロメートル%。

1:50:48	はい。はい。はい。
1:50:51	に引かれています。
1:51:03	Vsで書いてあって、
1:51:11	両方あるか、すいません、VSどっちにですか。
1:51:15	それぞれですね、その角水色のやつ。
1:51:18	後は、1号、
1:51:20	ダブルで、お前は8しかない。そうですねその1本をまっすぐ上がっちゃってるやつしかなかった。
1:51:28	なんだけど。
1:51:32	ツヴァイト、
1:51:37	うん。
1:51:51	うちのG0の方。
1:51:54	方ですね。
1:51:58	ここに幾つか丸、
1:52:02	底樋深井丸がこれNo. 8-0です。それはそのマエネNo.8の丸がそこにいます。
1:52:13	前は、これからこれを上下で伸ばして、そうですね10メートルのところですね、210、
1:52:21	ギガパスぎMPaのところにあるのが、3点しかないけどそれがもう一つのナンバー8ですね。うん。
1:52:43	事務長、すいません。
1:52:45	流出なんすけど、同じ標高に何ぼ8メートルが複数あるわなんて誰でした。
1:52:51	えっとですね、既往のデータは、同じ深度で3サンプル
1:52:58	ですか、ローテ予算。
1:53:01	でそのOT-3サンポを全部を入れて、累計してますと平均をします。ですから、前回のやつは3サンプルずつ入ってるんで、
1:53:10	平均しても大体同じなんです。
1:53:14	同じ機能があるんですけども、一つにまとめてもあまり影響がない、変わらないと。
1:53:22	局のときも同じ
1:53:24	やり方で、そのデータセット。
1:53:26	ユフ野瀬。
1:53:27	オカノ時のが、当然専門でございます。許可の時の時に、震度ごとにサンプル

1:53:34	ちょっと
1:53:36	今回は、深さ方向に2メートル間隔で1サンプルずつと。
1:53:45	成長します。わかりました。そうすると震度ごとのデータ数っていうのは、前回と今回違うと思うんですね。はい。
1:53:52	当然関野でございます。前は、一つのボーリング孔で1点とか2点しかとれてございません。
1:53:58	で、今回は、全部2メートル間隔で、
1:54:02	とっておりますので、深さ方向に、
1:54:05	速度分布の変化、或いはロー <sub>t</sub> の変化っていうものを全部かけ合わせて、図にしております。
1:54:26	はい、規制庁から大体状況は。はい。
1:54:35	規制庁側から、
1:54:40	規制庁です。今、処理の過程をご説明いただいたんですけど、
1:54:48	追加されたW1というPS検層結果
1:54:52	うん。
1:54:53	2首藤 462ページになります。
1:54:58	はい。
1:55:01	これ、美馬須藤深さ十七、八メートルぐらいまでです。
1:55:08	うん。
1:55:09	先ほどの、
1:55:11	413ページの、
1:55:15	左側に第1号、
1:55:21	20メートルぐらいまで伸びているデータがそれなんです。
1:55:27	だとすると、
1:55:29	整合してるのかどうか。
1:55:31	先ほど神谷さんは、当然ものでございますがカミヤさんの話でも、
1:55:36	もしないですけども、時期が違うので、
1:55:39	頭に入って、同じW1比較して、このページとそのページが違うんじゃないかとNo.8が、実際にやられたときというのは、規制庁。
1:55:53	これはここまで引いてるけれども、これはここまでじゃない。
1:55:58	おっしゃった。
1:55:59	これは北口堂下。
1:56:04	Wちゃん。460ページ、はい。
1:56:08	これは、
1:56:09	ここまでで聞いてるでしょ。はい。

1:56:12	でも、こっち側のこのW力のぼい緑は 20 メートルまで。
1:56:20	43 ページ。
1:56:26	これ多分重なってるんで、
1:56:29	20 メーターまで引いてるのがNo. 8 で、
1:56:33	ライトブルーの方は、18 メーターまでしか入れてないはずですよ。
1:56:40	ここ緑が何か繋がってる。いえ、それは何かずっとずっと前から、
1:56:50	アノないで多分改めますか、ない、すいません。
1:56:53	はい。ちょっと、それから、
1:56:59	院長です。ちょっとはっきりします。はい。
1:57:02	このページ、2000 万ですけど。はい。400、
1:57:19	別のページの寒色系暖色系という形に要件をされている。
1:57:24	30 幾つかのデータ。
1:57:26	載せているグラフが 412 ページ。はい。
1:57:30	はい。
1:57:34	いうわけかと思いました。
1:57:36	いいですか。
1:57:38	どのデータがどの時点かとか、対応までここで示す必要があるなら、
1:57:43	いちいちで一緒になっちゃうんでしょうけど、
1:57:46	99 年以前、1000 年以降と起用と追加と、さらに地下水観測孔と、
1:57:53	合計 5 種類。
1:57:57	時期が 2 種類で、
1:58:04	企業追加と地下水観測孔の三種類だとすると、2 ヶ月 36 食というふう に、
1:58:10	求めるという点もあるんじゃないかなと思いますけれども、
1:58:15	地点ごとに色分けした詳細の参考資料として、そこで必要なものが来 る。
1:58:21	で、全体傾向
1:58:23	の違いとかを述べるのであれば、そういった、
1:58:27	それと見やすいのではないかなと。
1:58:32	それ、
1:58:38	です。
1:58:41	そういう図の見せ方の観点でいきますと、414 ページは今回の御説明 の規模になる部分はないかと思うんですが、
1:58:50	細かな話になりますけど、
1:58:52	図を左右に並べていって、タテウチヤマナカで 20、

1:58:57	戸谷参事
1:59:00	横軸も右と左で若干大きさが違ってですね。
1:59:03	感覚的に両者を比較したときに、どれが差がどれぐらいってしまっただのかっていうのが少し、
1:59:19	はい。ありがとうございます。失礼いたしましたご都合のところちゃんあった。
1:59:28	成長。
1:59:29	今回追加でもう1点なんですけど、410 ページ。
1:59:42	無料のツール。
1:59:45	30
1:59:49	黒が企業で、
1:59:51	丸が、
1:59:52	結果、ごめんなさい、クドウ学級で赤が追加。
1:59:56	で、丸三角のデータを、
2:00:00	もう、
2:00:01	海域の赤っていうのは、追加ではなくて、追加を含む全体。
2:00:05	うん。
2:00:06	これもちょっと議論を別にされた方が、
2:00:24	ですけど、その続きましてこの
2:00:27	今、話題になりました部分。
2:00:30	確認ですが、
2:00:33	11 ページ。
2:00:51	次の 412 ページですね下の下線のあるところで、今回追加されたW内田分、
2:00:59	説明が簡単にあるんですけども、
2:01:03	シンムラコウなる地下水観測。
2:01:06	続いて、追加調査をした。
2:01:09	うん。
2:01:10	こういう状態の調査で、
2:01:15	どういう測定を行ったのかっていうご説明いただければ
2:01:20	はい。遠田セキ
2:01:21	です。
2:01:22	これらはですね、ここに書いてあります、地下水観測孔で、今自動計測です、これ、自主的な計測でございますが、自動計測です、
2:01:33	す、地下水を測ってる。

2:01:36	でございますで、それに対してですねその次、計測器を外しまして、AP S件数、通常のPS検層ですね、叩きと重錘落下。
2:01:46	で、これにつきまして1メートルごとにですね、それを試験をいたしまして、VsとVpを測定したということでございます。
2:01:59	地下水観測孔穴の状態というのは、PS検層測定に適用できる状態。
2:02:06	えっとですねこれは観測車にいろいろと相談したんで、実際に
2:02:11	しかし観測孔なんで、塩ビのですね、ドレン管が中に入っております。で、今先ほどPSと言ってしまいましたけども、P波がですね、やはり取れませんでした。
2:02:22	で、えさについてはですね、そのドレーンの影響がほとんどなくて、もともとエザワ取れますよねか業者さんと言います観測業者さんの方が言っていたもんですから、その結果はですね大体先ほどのWYと、No.8で同じぐらい速度が出るっていうのが、
2:02:38	一つ確認なんですけども、そういう形でS波の方につきましては、正しく通りというふうに考えております。
2:02:47	規制庁です。はい。
2:02:49	この河川の説明がシンボまでらコウノは地下水感想。
2:02:53	落馬って言ったら、こっちアベむき出しになっているのがちょっと良いですよ。
2:02:58	うん。
2:02:59	そうじゃなくて、現品のやっぱ、
2:03:01	当然設計部です。はい。
2:03:04	普通そんなもんコンクリートで固めない限り学校等に行ってしまうんですけども、それを抜くかっていう話もあったんですけども、
2:03:11	抜くと孔壁が崩れるんで、そのままの形でやっておりますので、ちょっとまだコウというのはちょっと言い過ぎなもんですから、
2:03:18	ちょっとその辺の言い回しをですね、もう少しきちんと早く書くようにいたします。はい。所長。
2:03:26	多分学校だと時あまり直接発着して該当性で、
2:03:32	当然これ、
2:03:33	思います。
2:03:37	その場合に、園芸用いても、正常な測定ができるんだと。
2:03:42	今回地下水観測。
2:03:48	影響がない。
2:03:49	一定結果、

2:03:50	そのまま受け入れられるものは、
2:03:53	それでも、
2:03:54	若干、高見、或いはでしょうね。
2:03:59	まあそういう見方をすべきものだとかそういったところもあります。
2:04:02	今回、データの見方として、ちゃんと評価をした上で使ってる。
2:04:07	と思われます。
2:04:16	と同じものでございますが、確認できる範囲で記述させていただきたいと思ひます。
2:04:27	規制庁カミデ杉本ハヤシで、
2:04:29	Vpは取れない。
2:04:33	DBPは取れない。
2:04:35	取れないというかとれてるんですけども、速度が、
2:04:40	それに相当するような速度ではないようなことを聞いております。
2:04:44	規制庁。
2:04:45	さっきの 462 ページって言ったようにVPとはまた別の話。
2:04:51	一応それっぽい。
2:04:53	1000、
2:05:05	そうですねすいません。
2:05:08	そういうふうな話を聞いたもんですから、ちょっとすみませんもう一度確認をいたします。はい。
2:05:15	はい、規制庁カツラわかりました。
2:05:18	都築が成長します。先ほどの説明をお願いします。
2:05:25	えっと、Henry。
2:05:28	下水のパイプと。
2:05:31	それはできないの方にも書いてあるような気がしますので、それも留意して、ちゃんとしたデータがとれてますよっていうご説明。
2:05:48	当然のみでございます。ちょっとこの辺もう少し詳しく確認いたしますので、それを記述させていただきたいと思ひます。
2:05:59	あと2点ばかり、最後の方まで通してよろしいですか。
2:06:07	江藤。この資料のですね、一番最後の方に、
2:06:11	サンポの10ページベップと519。
2:06:16	うん。
2:06:31	それは、
2:06:32	プールの説明、記載があるので、4月の会合において、
2:06:37	別には6月20日の会合で、



2:06:40	感度分析
2:06:42	に対する技術的な、
2:06:45	説明の拡充を、
2:06:47	てくださいねと。
2:06:48	いったことに対する資料。
2:07:00	で、次のページにですね。
2:07:02	次のページ、121 ページに、
2:07:06	ダイゴ使われていたようにし、
2:07:09	いるんですが、
2:07:11	上が嬉しい。
2:07:15	うん。
2:07:16	まず、
2:07:17	の段階でもそうだったんですが、
2:07:20	ユリatタケヤの右側の、
2:07:23	凡例を見ますと、A-1 という赤丸がGL-8 メーターぐらい。
2:07:31	で、そこから下に赤線が、
2:07:34	そこから上に、
2:07:36	5 軸で 100 幾つの数字のところで、
2:07:40	赤線が、
2:07:42	医療分、
2:07:45	もう、
2:07:46	A-1 という凡例河津 とGL-8 メーターだけのデータのように、
2:07:51	ブルース二段階ですよ。
2:07:54	UV
2:07:55	したらその根拠データはどうですかという、
2:08:13	当然関野でございますちょっと今確認いたします。はい。
2:08:29	規制庁の橋野です。今、分散が確認されてる間に別に、
2:08:33	イマセ-3 しか答えられないんですか。はい。はい。
2:08:37	もちろん、
2:08:53	そしたらそれを確認したわけだから、
2:08:56	後日、説明を追加していただくという形。
2:09:01	はいすいません。はい。ちょっとこれ、
2:09:03	話しても、はい。
2:09:09	同じくその下の図、AC建屋の
2:09:13	右側の図なんですけど、

2:09:15	凡例にA-4というデータと散っているんですが、はい。これに対応して設定した事情。
2:09:25	もう、深度依存していない、直線が載っていないんですね。で、
2:09:31	6月の会合資料には、このA-4という、青丸で、スターから下にゾーンという、上にちょっと離れたところにどンドン2段、
2:09:43	見せていない。
2:09:45	理由も含めてですね。
2:09:47	ここもどういうふうにデータを設定して、
2:09:55	ね。
2:10:00	すいません、遠い。
2:10:01	1406棟だけのものがございます。469ページですね、
2:10:09	左上がですね、これ4なんです、
2:10:13	このA4自体はこの6メーターのところに今、自動で100円、
2:10:19	25ぐらい。
2:10:20	入ってるんで、それをここにプロットすると。
2:10:25	すいません。
2:10:26	先ほどの平安でしたね、ごめんなさい。Jワン、A案だから、
2:10:30	先ほど一番最初のオカイトウの方ですが、
2:10:37	468ページのキのところですね。
2:10:43	1のところに、左下、右下ですが右下にですね、
2:10:49	HのG0が200呉。
2:10:55	40、35ぐらいとかね、にございます。
2:10:59	このデータをですね取り込んでるものと思われませんが、ちょっと先ほど岸野さんにおっしゃられたように、
2:11:06	前回の6月、
2:11:10	20日の資料とですね、ちょっと私の方でちょっと見比べましてですねこの辺の説明をもう少し、
2:11:17	きちんとさせていただきたいと思います。
2:11:20	木本先生がどこから来てるのかと、それとこっちにイセがないのはないんですよ。ちょっと合わせて、はい。はい。すいません。はい。はい。
2:11:33	うん。
2:11:37	521ページに戻りまして、右下の図に対応しようと違う上違って、今回説明されているので、
2:11:45	この会合での指摘に対する説明資料で、
2:11:49	むしろ、

2:11:51	わかりました。その上で、今回新たに追加データを載せてところの検討を追加してますんで、
2:11:58	二段階でとって説明する。
2:12:06	はい、遠田関野様でございます。はい、承知いたしました。
2:12:11	うん。
2:12:13	うん。うん。
2:12:20	前の文章、三行ぐらい上からで、DC建屋はという。
2:12:26	うん。
2:12:30	増収。
2:12:34	今回のインピーダンスが大きいことから振幅が大きく、
2:12:41	長周期側への
2:12:47	タダ
2:12:48	ん。
2:12:49	G0 が、
2:12:51	長周期側にシフト。
2:12:54	インピーダンス比が大きい。
2:12:56	もう、
2:12:57	何かで確認されて、
2:12:59	説明されている。
2:13:03	検討して、
2:13:05	当然関野でございますがインピーダンス比につきましては老アノウツミノ 口郎通路は、
2:13:13	三つ。
2:13:14	式がございますのでインピーダンス比がおっきくなりますと、それに対し て振幅も大きくなるという数式のこと、ことから話をしております。
2:13:26	すいません、それは、
2:13:28	521 ページから読み取れることです。
2:13:32	えっとですね。
2:13:36	例えばそれと裏データがあって、それで確認したことを、その文章として ですね。
2:13:46	研究なんかどちらへと推定でございます。
2:13:49	あれですか、そういうことを裏付けが取れてない。
2:13:53	そうですね。この、今、タケノでございますがここに記述していることにつ きましては、この図を見てですね、物性値を見て、一般的な常識的なこ とを書いていると。

2:14:05	うん。不動産でも、ここでインピーダンス比が大きいことからっていうのは、これは鷹架層境界と表層地盤境界のこれ。そうですね。あれですよ速度構造も見た上で、こうだから、
2:14:19	こういうふうに分けるよって書いてるわけじゃないですか。じゃ、どのデータ見てこういうふうに分けたのかっていうのは、多分×は、もちろんここで言いますと、実際に次
2:14:31	今後、521 ページにしますと、表層の地盤がG0、G0 が 110 ぐらいで、鷹架層のG0 というのは、もう 1000 近い値でございますから、
2:14:42	そこですごく大きいっぱい出しますよね。
2:14:46	平均ではなくて、ちょ、
2:14:49	ジンプの方。
2:14:53	平均ではそこまでインピーダンス以上、
2:14:57	平均ではないということで、深度方向依存だとするとインピーダンス比が小さくなる。
2:15:10	私、何を引用して、こういうふうに分けるかといったところも、
2:15:18	ちょっと足さないと、わかりましたはい。当然のものでございます。お願いします。ここのこの図をちゃんと説明するように、もう一度、修正いたします。
2:15:31	この確認された具体的な数値データがあるんだったらそれもあわせて、
2:15:37	具体的に裏付け根拠がついての部分っていうのは、
2:15:47	何ですか、どこまで裏がとれてる話。
2:15:58	はい、小野瀬久野でございます小路田島。
2:16:20	規制庁、UCP提案。
2:16:33	インピーダンス比という話が出てますんでそのあたり、
2:16:37	うん。
2:16:40	うん。
2:16:43	下線の 4。
2:16:48	4、
2:16:50	診療方法に技術の物性値を与え、
2:16:55	なってるんですけど、
2:16:56	これも今回の資料からズー
2:16:59	今回の事業から抜けてますけど、DC建屋の
2:17:03	下部設定。
2:17:05	先ほどの青丸を境にして、上下、
2:17:11	御説明シンボ方向、実の物性っていうのとちょっと整合してない。

2:17:15	うん。
2:17:16	その通り、言葉足らず。
2:17:23	二段階に分けて二つを示され、
2:17:28	そうですか。はい。これも、
2:17:31	全部もう前はもう、これ、
2:17:35	すいません、ちょっと審査会合資料を、
2:17:38	もう一度確認いたします。
2:17:40	私この絵をインター付近でちょっと今、説明をしてしまってるので、
2:17:45	ちょっとその辺、
2:17:48	もう少し岸野さんのおっしゃられてるところの、
2:17:53	疑問点をですね、チャックと確認して、わかります。ご説明いたします。はい。ありがとうございます。よろしくお願ひします。細かいご指摘に対する説明資料だと思いますので、
2:18:03	指摘に対しては、これらに、
2:18:07	元もう一度、
2:18:10	わかりました。はい。はい。
2:18:13	清と申します。あと最後に、
2:18:15	1点。
2:18:16	です。
2:18:18	今回の資料の、
2:18:20	一番前の方、5分の8ページ。
2:18:32	(4)としてですね、ステップ①データ製品ステップ0のデータ分析、これが敷地地盤の特徴をとらえた時、
2:18:42	ステップ3が基本何でも設定。
2:18:45	今回、ブルーステップで5分で整理していきます。
2:18:51	というのが全体にある中で、
2:18:54	この別紙議論っていうのは、とりあえず沿っていますけど、
2:18:59	進められて、
2:19:01	これはちょっとまた違う流れで、
2:19:07	右の方でございます。そうですね。
2:19:10	まず、
2:19:12	今のお答で、不可能かっていうウノでいけば、表層地盤も同じステップを踏んでやっていきます。でですね、その上でこの

2:19:23	実際ですねここ、先ほどちょっとアノオガセからも話があったんですけども、会合でのご説明事項ですとか、そういう議論を踏まえてちょっと今、有識者からアドバイスいただいている進め方も踏まえて、少しちょっと
2:19:39	ここも修正が必要だと思ってますんでここを修正して後の別紙もですね、その読み込みとして、客船を取る必要はあるというふうには思っています、
2:19:50	表層に関しても、今やってる営みは、データを、の信頼性を確認してデータをセットをそろえるという断面のことをやっているという認識で、我々としてございます。
2:20:05	そうすると、今の別紙 2-4 では、いろんな検討が出てきて、これらを例えば並べかえたりとかして、
2:20:16	ステップ①②③がちょっと変わってくるかもしれないけどそれに沿う形で、再構成される。
2:20:23	ベッショです。はい。というイメージを理解して、
2:20:30	元のことでございます。ちょっとここは工夫させていただこうと思って、別紙 2 の 4 も、ステップ 123 の順番になるのか、本文で 123 をきちんとやった上で、呼び込むものを 2-4 から読み込むのかちょっと見やすい形をちょっと工夫させてください。他の町との、
2:20:47	横並びも考えながらちょっと章ごとに見やすい形ってのはいろいろあるかなというふうに思うので今、規則をしますというのを、ちょっとそこだけちょっと、ダテササキいただくのはちょっと、
2:21:00	思いますけれども、おっしゃる通りテストチェックと、それに基づく紐、それに紐づくデータがちゃんと読めるようにというのが最終目的だと思いますので、ちょっとそれに基づいてちゃんとわかるような形を目がけたいと思います。
2:21:15	はい、わかりました。その辺りの構成とか、捨てる。
2:21:20	これはまだちょっと検討中なところ。
2:21:24	はい。ちょっと作りながら、ちょっとわかりやすく工夫して、ちょっと改善していきたいというふうに思っていますあまり言わないんですけども、頑張りたいと思います。はい、わかりました。
2:21:34	規制庁です。私からいいじゃん。
2:21:46	どうしよう
2:21:51	今のお話の関連だと、
2:21:54	検討ステップ 2 をし起こせて来週提示まで考えてます。あと、
2:22:01	競争においては、

2:22:03	今日説明のあったぐらいの、その年代ごと、
2:22:07	はい具合となるんですね。
2:22:09	ええ。
2:22:10	いらなくなる説明。
2:22:13	今までは、結構傾きがおっきよねって議論をしていたから、いろんな検討があって参考のところですよ。
2:22:24	千野前野Dた2であるからこそ出てきた。
2:22:31	どう、それ整備しない
2:22:35	来週。
2:22:40	で、
2:22:40	この辺は会合でもしっかり話をして、確か、
2:22:56	別紙2-4の表紙ぐらい。
2:22:59	有井にこの辺はいらなくなってるって思ってますっていうぐらいは、清整理したい参考資料とか、その辺の記載は
2:23:09	今の我々の主張が通れば、この辺なお手を入れますっていうのがわかるようにして、
2:23:15	まあ、そうです。
2:23:22	電塩全般、
2:23:24	ですけど
2:23:27	今回の資料等、
2:23:34	ページ、
2:23:39	ページ、
2:23:47	340
2:23:51	マスキングしちゃうんですけど、
2:23:53	これ、
2:23:55	公開番号マスキングしちゃって、我々非公開ばってマスキング外したものをもらってますが、
2:24:02	マスキング
2:24:05	で何にも関係ないんですよ。ここに写ってるものを今回
2:24:10	今、
2:24:14	なので、
2:24:15	それだけであれば、まず、
2:24:19	今回は非公開版わけですよ。なくて、
2:24:22	塗りつぶしたものだけくれればいいです。

2:24:27	こういうものではなくて、単純に数値とか詳細図とかで、あとは機微情報 本当の機微情報が、
2:24:35	混在している。
2:24:36	場合でも、
2:24:39	こういう審査に関係なくて、ただ写真に映り込んでますっていうものは、 塗りつぶしたもので非公開版でもいいですよ。
2:24:49	要は、
2:24:51	別に我々見なくてもいいところを、
2:24:55	はい。開けられて見せられてもしょうがないんで。
2:24:58	その辺マスキングの仕方を、前々からマスキングせいという話はしてま すけど、
2:25:06	適正というか
2:25:09	ちゃんとシマした方が、これ
2:25:12	公開版的コウタカノ二つもらっても、お互いの事務局も面倒だし、
2:25:19	開示しなくていいもの。
2:25:23	ということなんですけど、
2:25:27	あんまり私はあんまりちょっとぴんとは来なかったんすけどこれ、衛藤、 べったり塗りつぶしたらいいじゃないかっておっしゃってるんですって いう状態だけのものが終わると。
2:25:40	はい。
2:25:41	この赤枠ぱっと黒塗り完了はオオハシない。
2:25:48	はい。長内坂だけ出しとけばいいわけじゃなくていいでしょ。川下赤尾な しでいいですよ。
2:25:56	何かありますとか、核不拡散の観点から公開できない箇所って、2ペー ジ目にあって、その観点だけでもマスキングだったら我々には関係がな いので、
2:26:06	別に公開版、公開は、
2:26:09	規制庁カタギリ言ってそんなにすごい広くて、なんか配置図とかでもそ の理由隠されちゃうからその理由だとかケース形成っていう話ではな く、なくて具体の対象ではあるんですけど今回は屋外
2:26:23	見せたいのは、ボーリングの計測位置っていうのが屋外にこういうと ころでやってますよっていうのだけ見れば、
2:26:29	そこに映り込んでいる、
2:26:31	ものを、これは機微情報だからって、
2:26:35	消すんだったら消した状態のまんまでいいですから、



2:26:40	私なんかはそんな非公開ばいいじゃないっていう、入れる必要ないっす。
2:26:55	ここのですね非公開って意味なんでしょうか。これタダヨシツグ非公開ば、だから、
2:27:05	もう整理してしまって、おそらく公開非公開版、同じにってしまったらいいよねそういった今回版をこういうふうに外したやつをもらったって仕方ないよねと今おっしゃっていると理解しました。
2:27:17	今日の、今回資料であれば、こんなものでしかマスキング入ってないから、そもそも非公開はいらないんですよ。はい、北海道さんだから。
2:27:27	え。
2:27:28	ということですね。そもそも何か資料作り込むときに、これクロズミで、もう死んだって。
2:27:35	そう。
2:27:36	ということなんで、その辺は、
2:27:39	今回も何か逆にデータを持って、ちょっと、
2:27:43	年末でバタバタしたっていうのもあって、られるんだとさ。
2:27:49	ということなんで、その辺は
2:27:51	必要、開けるべきマスキングとつぶしたままでいいよ。
2:27:56	確認の中でもそういう話をされたという
2:28:06	規制庁から、私からは以上です。
2:28:09	前わかりますか。
2:28:14	はい、規制庁から特に何ていうか、その他全体通じ、あとコメントリストとかで何かアリマ
2:28:26	あ、規制庁ハバサキそしたらあのさっき冒頭、
2:28:29	木野さんから説明があった大きな、
2:28:32	それ以外にもいくつかありますんで、例えば 4-11 のところの、
2:28:38	反映内容ところの、
2:28:41	1 行目のデータの傾向の完成について、
2:28:46	そう。
2:28:47	反省っていうね、ちょっと違う動きですよ。そうですね。それから 08 の資料中にもですね、何ヶ所か、明らかにミスというのはありますんで、
2:29:00	すいません。
2:29:01	後はこうしてください。
2:29:04	明日、

2:29:08	規制庁どっか絶対なければ振り返りはどうしますか、ちょっと時間、少し時間いただいて、後、
2:29:19	日本直接いただけますか。はい、規制庁じゃ 16 時 10 分再開。
2:29:26	一旦、
0:00:00	録音サイクルしました規制庁ベースそれは、
0:00:05	振替ですね。
0:00:08	前のことでございます。では本日、
0:00:11	ヒアリングの振り返りでございます。まず全体についてですけれどもこのヒアリング呉のそれぞれですねこのどこまで確認するのかを明確にして口頭で補足しないと粗度確認したらいいかわからないということがないように、
0:00:26	資料作成においてちょっとそれを明示するということで協議することというので、いただいております。聞いて参りたいと思います。
0:00:33	それからマスキングについて、藤イセさん関係ない、ないようであればもう塗りつぶしたもので公開非公開の識別しないといったような形での整理をするということで、今後対応して参りたいというふうに思います。
0:00:45	で、確かでも 08 の、まず、本文でございます。53 ページ、物性値設定の母集団設定という記載がございますけどもこれ意味がわかりやすくなる 2 丁目を統一して、
0:00:58	ということでございます。8 ページ目本文に記載の検討ステップ等各種の検討ステップについてはこれも整合を図ってですね最終的に見やすい資料構成とするということで、対応して参ります。
0:01:10	別紙 2-3 の岩盤部の減衰定数でございますけれども、84 ページ行って、減衰定数に係る検討実績サイトウを示す、上ではその項目を網羅した上でこれ暫定的な例として記載してるということなんでそれがきちっとわかるような、
0:01:25	記載にするということで、築きたいと思います。
0:01:29	で、110 ページ、酒育てに対する測定におけるラグという記載の一言でその特徴をまとめているところにつきましてそうじゃなくて、要因についてわかってる内容分かんないよ、なぜそう考えるナカについてと低減が期待と。
0:01:43	いうこととそれに合わせまして、衛藤セキに用いる減衰を設定する上で、サー検層データの扱いの考え方がわかるように記載すること。

0:01:54	110 ページ、同じところですけどもニシカワ儀間について追加調査データに加えまして、基本データの相対的な関係性に対する考察について今後説明ということでございます。
0:02:06	で、110 ページ、各施設において、獲られた作品想定時間に対しまして、速度構造の傾向と、下水道数の大小の関係性について考察を、
0:02:17	とらえることとございます。
0:02:20	234 ページ、西平氏は新たに統計を行う際に層境界を今回の読点で設定してるわけですけども、許可段階では実施してなくて性悪説工認では実施することとなった。
0:02:32	というのが、この中でちゃんとわかるように記載ということでございます。
0:02:36	244 ページ音スペクトルの比較、呉につきまして、それぞれの結果これあれですね、は、その結果をどのように比較してみる必要があるのか、何を確認したいのかが明確ではないと。
0:02:52	ということで、ずっとについて公正適正化するほか、これまでの検討の積み重ねにより、られた知見を取りまとめた記載を追加するということでございます。
0:03:02	11 ページニッタ 10 番目同定により獲られた下水道ガス版についての発注ですね。これ審査会合と同様にせろとっていた修正してます。
0:03:13	292 ページ、296 ページのところの建設行政に係る検討結果に対する考察につきまして、続原水属定義につきまして 4 の説明をするるとともに、
0:03:24	観測記録の同定結果の信頼性があたかもないように見えるということでこれ観測記録の増というところとアノエザワ検層の比較のところとございますけれども、
0:03:36	ここんところは大きさについて、誤解ないように見直すことと、ということと、ニシウチヒガシオオニシオイカワが大きい理由等ですね、ここわかることわからないことを明確にして説明することということでございます。
0:03:50	次に 2-4 の表層地盤の物性値のところとございますけれども 461 先のコンクリートの記載が岩盤トガシのところとございますけれども本当実務がどういう状況なのか。
0:04:02	これ確認していただいて、
0:04:05	413 ページ 462 ページの WY の速度について、図のこの深度方向ですね、成功していないということでこれ、確認いたして、訂正をいたします。
0:04:16	次ですけども図の見やすさの観点から、クボということとでいただいておりますのが、412 ページの説明に合わせて線の色をですね、寒色系暖色系のアノを、

0:04:31	旧査定の事ではなくて、統一したような形で、トピックがわからずに、いや、
0:04:37	わかりやすいように、皆そうだと。
0:04:40	いうことと、最後のビフォーアフターの図があるところがあるんですけどもちゃんと軸や書式を合わせて見やすい。
0:04:48	410 ページの追加分を、じゃあ 1 点ですね、これ追加赤字してるんだったら近くでっていうのは色変えて欲しいということで
0:04:59	411 ページ、W1W2 コウの状況及び測定も状況を踏まえた測定結果に対する考察をして測定結果がそのまま使うことができるかいいのかと。
0:05:09	検討というのをこれ記載することということでいただいております。
0:05:13	WH確認の部位の扱いについて、これアノをもう一度確認いたしまして、設備ということでございます。
0:05:22	521 ページの感度解析の有償化物性のセキ 2Aのそれぞれの建物でございますけども、それについて、どのような設定を行ったかわかりやすい説明すること、それから会合での指摘事項に対する説明何で介護資料の図と整合させた説明を、
0:05:39	いただいております。
0:05:41	519 ページニシノ間分析に対する考察について、ずっと文章の対応がとれず見直すことということでインピーダンス、他インピーダンス比の対象と数値的な根拠がある場合は、
0:05:54	その根拠もきちんと、どこから引っ張ったかわかるようにということで、記載を見直したいというふうに考えてございます。
0:06:03	で、今回の説明が読まれて、おそらく府最終的に不要となるような説明の軸からずれていくものが、
0:06:13	ある意味からずれてるものがおそらく出てくるんだろうということなんですけども、これちょっと方向性は検討して、議会はその表紙に構成変更の方向性は記載していくと。
0:06:25	しながらも今記載をちょっと落とすのは一旦置いておいて、その方向性についてご確認いただいてからということで提示いただいているところでございます。以上でございます。
0:06:38	はい、規制庁です。
0:06:44	いいですか。
0:06:45	規制庁のキシノ。
0:06:49	最後に、
0:06:51	当時伴。

0:06:57	六ヶ所ちょっとロールアップしてください。一番そういう方。
0:07:05	はい。
0:07:06	19、
0:07:11	等に含まれると。
0:07:13	いいかと思えます。
0:07:15	ちょっとヒアリング中でわあ、
0:07:19	入れますよね。はい。そういった説明もありましてそのあたりの説明の、
0:07:28	これって書いてない。はい。
0:07:30	これ以上ずれとか、あれ、音声来てください。
0:07:36	規制庁紙。
0:07:37	振り返りそのものじゃないんですけど、
0:07:41	08-2 ページにちょっと目次を移して欲しいんですけど、
0:07:47	来週どんなのが出てくる。
0:07:51	今まで4 イシイオオニシって言って別紙1、2-1 から2-4 まではブラッシュアップしたものが出てくるんだろうと思うんですけど、
0:08:01	この間の会合だと、
0:08:05	周辺で、
0:08:08	大体こんな感じの地盤構造ですねっていうのが、周辺出てきたんですけど、
0:08:15	それから次は、一通りのグループについて、岩石コアがどうなるかはちょっとあれですけど気持ちが出てくるということなんですけど、前回周辺で出してもらった
0:08:28	地盤構造の
0:08:32	とりあえず結果みたいになっていう、これ、このフジイところに当てはまるんですけど、結果どうけ、あれですね、データとしての結果っていうところ、
0:08:46	as-isとしての、
0:08:50	その前にですね、この前の会合だったら追加検討とか言いながら最後に書いたところのあれですかね。
0:08:58	あれだと、
0:08:59	暑い。そうですね。だからそういうふうにも、
0:09:03	構造からあれなんですけれども、今 6.16. 26.3 並びには入るんですけども、6.3 の前ですねこれデータ分析だけやってるんですけど、多分章構成を若干ですね、皆様、
0:09:20	ないかなあという気はしますし、

0:09:23	少なくとも高 6.3 の前のところに、そういうものをまとめたものが入って何かそんなミキなんだと思って。
0:09:33	もう、
0:09:34	このままだとちょっとうまく
0:09:36	うんそう。
0:09:38	はい。アノです。そのあたりも、
0:09:41	目次が入ってきて、実際、
0:09:44	結果の、
0:09:48	いいですね。はい。
0:09:49	わかりました。はい。
0:09:51	それはします。
0:09:54	他全般、規制庁。
0:09:57	例年学科は大丈夫です。
0:10:02	それで、
0:10:04	少し様でした。ありがとうございます。